



2.0 TXOne StellarOne

インストールガイド

for StellarEnforce



※注意事項

複数年契約について

- ・ お客さまが複数年契約（複数年分のサポート費用前払い）された場合でも、各製品のサポート期間については、当該契約期間によらず、製品ごとに設定されたサポート提供期間が適用されます。
- ・ 複数年契約は、当該契約期間中の製品のサポート提供を保証するものではなく、また製品のサポート提供期間が終了した場合のバージョンアップを保証するものではありませんのでご注意ください。
- ・ 各製品のサポート提供期間は以下の Web サイトからご確認いただけます。

<https://success.trendmicro.com/jp/solution/000207383>

法人向け製品のサポートについて

- ・ 法人向け製品のサポートの一部または全部の内容、範囲または条件は、トレンドマイクロの裁量により随時変更される場合があります。
- ・ 法人向け製品のサポートの提供におけるトレンドマイクロの義務は、法人向け製品サポートに関する合理的な努力を行うことに限られるものとします。

著作権について

本ドキュメントに関する著作権は、トレンドマイクロ株式会社へ独占的に帰属します。トレンドマイクロ株式会社が事前に承諾している場合を除き、形態および手段を問わず、本ドキュメントまたはその一部を複製することは禁じられています。本ドキュメントの作成にあたっては細心の注意を払っていますが、本ドキュメントの記述に誤りや欠落があってもトレンドマイクロ株式会社はいかなる責任も負わないものとします。本ドキュメントおよびその記述内容は予告なしに変更される場合があります。

商標について

TRENDMICRO、TREND MICRO、ウイルスバスター、InterScan、INTERSCAN VIRUSWALL、InterScanWebManager、InterScan Web Security Suite、PortalProtect、Trend Micro Control Manager、Trend Micro MobileSecurity、VSAPI、Trend Park、Trend Labs、Network VirusWall Enforcer、Trend Micro USB Security、InterScan Web Security Virtual Appliance、InterScan Messaging Security Virtual Appliance、Trend Micro Reliable Security License、TRSL、Trend Micro Smart Protection Network、SPN、SMARTSCAN、Trend Micro Kids Safety、Trend Micro Web Security、Trend Micro Portable Security、Trend Micro Standard Web Security、Trend Micro Hosted Email Security、Trend Micro Deep Security、ウイルスバスタークラウド、スマートスキャン、Trend Micro Enterprise Security for Gateways、Enterprise Security for Gateways、Smart Protection Server、Deep Security、ウイルスバスター ビジネスセキュリティサービス、SafeSync、Trend Micro NAS Security、Trend Micro Data Loss Prevention、Trend Micro オンラインスキャン、Trend Micro Deep Security Anti Virus for VDI、Trend Micro Deep Security Virtual Patch、SECURE CLOUD、Trend Micro VDI オプション、おまかせ不正請求クリーンナップサービス、Deep Discovery、TCSE、おまかせインストール・バージョンアップ、Trend Micro Safe Lock、Deep Discovery Inspector、Trend Micro Mobile App Reputation、Jewelry Box、InterScan Messaging Security Suite Plus、おもいでバックアップサービス、おまかせ！スマホお探しサポート、保険&デジタルライフサポート、おまかせ！迷惑ソフトクリーンナップサービス、InterScan Web Security as a Service、Client/Server Suite Premium、Cloud Edge、Trend Micro Remote Manager、Threat Defense Expert、Next Generation Threat Defense、Trend Micro Smart Home Network、Retro Scan、is702、デジタルライフサポート プレミアム、Air サポート、Connected Threat Defense、ライトクリーナー、Trend Micro Policy Manager、フォルダシールド、トレンドマイクロ認定プロフェッショナルトレーニング、Trend Micro Certified Professional、TMCP、XGen、InterScan Messaging Security、InterScan Web Security、Trend Micro Policy-based Security Orchestration、Writing Style DNA、Securing Your Connected World、Apex One、Apex Central、MSPL、TMOL、TSSL、ZERO DAY INITIATIVE、Edge Fire、Smart Check、Trend Micro XDR、Trend Micro Managed XDR、OT Defense Console、Edge IPS、Trend Micro Cloud One、スマスキャ、Cloud One、Cloud One - Workload Security、Cloud One - Conformity、ウイルスバスター チェック！、Trend Micro Security Master、および Trend Micro Service One は、トレンドマイクロ株式会社の登録商標です。

本ドキュメントに記載されている各社の社名、製品名およびサービス名は、各社の商標または登録商標です。

Copyright © 2023 Trend Micro Incorporated. All rights reserved.

P/N: APEM29593_JP2303

プライバシーと個人データの収集に関する規定

トレンドマイクロ製品の一部の機能は、お客さまの製品の利用状況や検出にかかわる情報を収集してトレンドマイクロおよび TXOne Networks 社に送信します。この情報は一定の管轄区域内および特定の法令等において個人データとみなされることがあります。トレンドマイクロによるこのデータの収集を停止するには、お客さまが関連機能を無効にする必要があります。

TXOne StellarOne により収集されるデータの種類と各機能によるデータの収集を無効にする手順については、次の Web サイトを参照してください。

<https://www.go-tm.jp/data-collection-disclosure>

<https://www.txone.com/privacy-policy>



重要

データ収集の無効化やデータの削除により、製品、サービス、または機能の利用に影響が発生する場合があります。TXOne StellarOne における無効化の影響をご確認の上、無効化はお客さまの責任で行っていただくようお願いいたします。

トレンドマイクロは、次の Web サイトに規定されたトレンドマイクロのプライバシーポリシー (Global Privacy Notice) に従って、お客さまのデータを取り扱います。

https://www.trendmicro.com/ja_jp/about/legal/privacy-policy-product.html

目次

はじめに	6
ドキュメントについて	6
対象読者	7
ドキュメントの表記規則	7
第1章: 本製品の概要	8
StellarOne について	9
主な機能と特徴	9
新機能	10
第2章: インストール計画	12
システム要件	13
VMware システムのハードウェア要件	14
Hyper-V システムのハードウェア要件	15
エージェントの配信計画	16
使用するポートと FQDN	17
第3章: インストール	20
StellarOne のインストールフロー	21
VMware ESXi への StellarOne のオンボーディング	21
前提条件	21
StellarOne を VMware ESXi システムにデプロイする	22
VMware Workstation への StellarOne のオンボーディング	32
前提条件	32
StellarOne を VMware Workstation にデプロイする	32
Windows Hyper-V への StellarOne のオンボーディング	38

前提条件	38
StellarOne を Hyper-V システムにデプロイする	39
StellarOne の管理サーバ画面を開く	55
OT Intelligent Trust.....	57
第 4 章: コマンドラインでの StellarOne の設定	58
StellarOne のコマンドラインの使用.....	59
コマンドラインを使用した IP アドレスの設定.....	60
コマンドラインを使用した通信用ポートの変更.....	62
コマンドラインを使用した言語設定および StellarOne 表示モードの変更	65
コマンドラインを使用した vShell での Docker ネットワークの管理	68
第 5 章: アップグレードと移行	69
StellarOne の 2.0 (VMware) へのアップグレード/移行	70
StellarOne の 2.0 (Hyper-V) へのアップグレード/移行	73
第 6 章: テクニカルサポート	75
トラブルシューティングのリソース	76
サポートポータルの利用.....	76
製品サポート情報	77
トレンドマイクロへのウイルス解析依頼.....	78
メールレピュテーションについて	78
ファイルレピュテーションについて	78
Web レピュテーションについて	79
その他のリソース	79
最新版ダウンロード.....	79
脅威解析・サポートセンターTrendLabs (トレンドラボ)	79

はじめに

このインストールガイドでは、TXOne StellarOne の概要を説明し、さらに管理者がインストールおよび管理するための手順を説明します。

この章の内容は次のとおりです。

- [6 ページの「ドキュメントについて」](#)
- [7 ページの「対象読者」](#)
- [7 ページの「ドキュメントの表記規則」](#)

ドキュメントについて

本製品には、次のドキュメントが付属しています。

表 1. TXOne StellarOne のドキュメント

ドキュメント	説明
インストールガイド	製品の概要、インストール計画、インストール、設定の説明
管理者ガイド	StellarOne エージェントのインストール、製品の概要、設定、およびサーバとエージェントを管理するために必要な詳細情報の説明





対象読者

TXOne StellarOne のドキュメントは、エージェントのインストールを含めた StellarOne 管理担当者を対象としています。これらのユーザがネットワークとサーバ管理に関する高度な知識を備えていることを前提としています。

ドキュメントの表記規則

このドキュメントでは、次の表記規則を使用しています。

表 2. ドキュメントの表記規則

表記	説明
 注意	設定上の注意
 ヒント	推奨事項
 重要	避けるべき操作や設定についての注意
 警告!	使用上の重要事項

第 1 章

本製品の概要

この章では、TXOne StellarOne の概要とその機能について説明します。

この章の内容は次のとおりです。

- [9 ページの「StellarOne について」](#)
- [9 ページの「主な機能と特徴」](#)
- [10 ページの「新機能」](#)

StellarOne について

TXOne StellarOne は、モダナイズされたシステム向けの TXOne StellarProtect とレガシーシステム向けの TXOne StellarEnforce の両方の管理を効率化するように設計された集中管理コンソールです。

主な機能と特徴

StellarOne の管理サーバ画面には、次の機能と特徴があります。

表 1-1. 機能と特徴

機能	特徴
ダッシュボード	<p>管理サーバ画面のダッシュボードには、監視下のエージェントについての概要情報が表示されます。</p> <p>インストール済みのエージェントのステータスを簡単に確認でき、指定された期間内のエージェントのアクティビティについてセキュリティレポートを生成できます (StellarEnforce のみ)。</p>
エージェントの集中管理	<p>TXOne StellarOne では、管理者は次のタスクを実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • StellarProtect/StellarEnforce エージェントステータスの監視 • 接続ステータスの確認 • 設定の表示 • 手動またはポリシーによるエージェントログの収集 (StellarEnforce のみ) • エージェントのアプリケーション制御の有効化または無効化 • エージェントのデバイスコントロールの有効化または無効化 • エージェントのメンテナンスモードの設定 • エージェントコンポーネントのアップデート • 許可リストの初期化 • エージェントへの Patch の配信 • 信頼するファイルおよび USB デバイスの追加

機能	特徴
イベントの集中管理	StellarProtect/StellarEnforce エージェントで保護されたコンピュータでは、管理者がステータスやイベントを監視し、ファイルの実行がブロックされた場合はそれに対処できます。TXOne StellarOne にはイベント管理機能があり、管理者はこれを使用して、ブロックされたファイルイベントを迅速に把握して処理を実行できます。
監査	StellarOne の管理サーバ画面にアクセスするためのアカウントで実行された操作を監査することが可能です。StellarOne では各アカウントの操作をログに記録して、ログインしたユーザ、設定を変更したユーザ、イベントログを削除したユーザなどを追跡できます。

新機能

TXOne StellarOne 2.0 には、次の新機能および機能強化が含まれています。

表 1-2. TXOne StellarOne 2.0 の新機能

機能	特徴
アプリケーション制御	<p>この機能は、アプリケーションリストで定義されているファイルをロックダウンすることにより、不正プログラムによる攻撃を阻止し、保護レベルを引き上げます。次の 3 つのモードから選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 検出: 許可リストに登録されていないアプリケーションの実行は許可され、ユーザは通知を受け取ります。 施行: 許可リストに登録されていないアプリケーションの実行はブロックされ、ユーザは通知を受け取ります。 無効: ユーザが必要としている場合はアプリケーション制御モードを無効にすることもできますが、この機能は有効にすることをお勧めします。
エージェントコンポーネントのスケジュールアップデート	StellarOne の管理サーバ画面にある既存のコンポーネントのスケジュールアップデート機能に加え、エージェントに対するコンポーネントのスケジュールアップデートも設定できるようになりました (StellarProtect)。コンポーネントのアップデートは指定された時間間隔で自動的に実行されます。

機能	特徴
自己管理グループポリシー	この新しく追加されたグループポリシーにより、現場のオペレータがエージェントのポリシー設定を独自に指定できるようになります。自己管理ステータスに切り替わったローカルエージェントは、StellarOne の管理サーバ画面のポリシー管理から外されます。
メンテナンスモードでのリアルタイムの不正プログラム検索	[メンテナンスモード] オプションの下に [リアルタイムの不正プログラム検索] スイッチが追加され、シームレスな保護のためにメンテナンス期間中もリアルタイムの不正プログラム検索を有効にするようユーザを促します。
オープン API	エージェントのデータをクエリするためのオープン API が提供されています。API キーを生成して、アカウント管理のために各ユーザアカウントに対して有効期限を設定することもできます。

第 2 章

インストール計画

この章では、TXOne StellarOne のインストールを計画する方法について説明します。

この章の内容は次のとおりです。

- [13 ページの「システム要件」](#)
 - [14 ページの「VMware システムのハードウェア要件」](#)
 - [15 ページの「Hyper-V システムのハードウェア要件」](#)
- [16 ページの「エージェントの配信計画」](#)
- [17 ページの「使用するポートと FQDN」](#)

システム要件

TXOne StellarOne は、Open Virtual Appliance (OVA) または Virtual Hard Disk v2 (VHDX) 形式でパッケージ化されています。ハイパーバイザーごとに適用されるパッケージファイルが異なります。

サポートされるハイパーバイザー (OVA ファイル)

- VMware ESXi 6.5.x 以降のバージョン
- VMware Workstation 16.x 以降のバージョン

サポートされるハイパーバイザー (VHDX ファイル)

Windows Server 2019、Hyper-V マネージャー (Windows 10 以降のバージョン)

サポートされるブラウザ

- Google Chrome 87 以降のバージョン
- Microsoft Edge 79 以降のバージョン
- Mozilla Firefox 78 以降のバージョン



注意

サポートされる最低解像度は 1366x768 です。

VMware システムのハードウェア要件

ハードウェア要件は、設定および維持するエージェントとログの数によって異なります。お使いの StellarOne サーバ環境で管理可能なエージェントの最適な数については、次の各表を参照してください。

表 2-1. VMware 用のサイジング表

エージェントの最大数	CPU の最小数	メモリのサイズ	1 台目の HDD の容量	2 台目の HDD の容量 (推奨)
30,000	8	32GB	25GB	100GB
20,000	8	16GB		100GB
15,000	4	16GB		50GB
10,000	4	16GB		50GB
5,000	4	12GB		50GB
1,000	4	12GB		50GB
500	4	12GB		50GB

次の表に示すように、外部ディスク容量は保存する予定のログの数によって異なります。

表 2-2. ログの数とディスク容量

ログの数	ディスク容量
90,000,000	150GB
60,000,000	100GB
30,000,000	50GB

外部 HDD の最適な仕様を決定するには、次の式を参照してください。[1 つのエージェントで 1 日に出力されるログ数] × [ログの保存期間 (日数)] × [エージェントの合計数]

例: 20,000 エージェントの場合の外部 HDD サイズ

- 1 つのエージェントで 1 日に出力されるログ数: 100 イベント
- ログの保存期間 (日数): 30 日
- エージェントの合計数: 20,000 エージェント

ログの合計数: $100 \times 30 \times 20,000 = 60,000,000$ ログ

この場合、ストレージ容量として 100GB が必要になります。

Hyper-V システムのハードウェア要件

ハードウェア要件は、設定および維持するエージェントとログの数によって異なります。お使いの StellarOne サーバ環境で管理可能なエージェントの最適な数については、次の各表を参照してください。

表 2-3. Hyper-V 用のサイジング表

エージェントの最大数	CPU の最小数	メモリのサイズ	1 台目の HDD の容量	2 台目の HDD の容量 (推奨)
30,000	10	24GB	25GB	100GB
20,000	8	16GB		100GB
15,000	8	16GB		50GB
10,000	8	16GB		50GB
5,000	8	16GB		50GB
1,000	4	16GB		50GB
500	4	8GB		50GB

表 2-4. ログの数とディスク容量

ログの数	ディスク容量
300,000,000	500GB
180,000,000	300GB
90,000,000	150GB
30,000,000	50GB



注意

1. StellarOne には、初期化と起動プロセス用に最小容量が 50GB 以上の 1 台の外部ディスクが必要です。
2. 外部ディスクはシステム設定とイベントログの保存に使用します。以前の設定とログを新しい StellarOne インスタンスに移行する場合は、停止した StellarOne インスタンスの外部ディスクを再利用することもできます。

エージェントの配信計画

エージェントの配信を計画する際は、ネットワーク帯域幅を考慮する必要があります。配信を計画しているエージェント数をサポートするために必要な帯域幅の計算例として、次の説明を参照してください。

基本コンセプト:

利用可能な帯域幅の合計 / 配信タスクのサイズ = 1 回のタスクで配信可能なエージェントの数

現在、次の 3 種類の StellarOne 配信タスクがあります。

- 差分パターンファイルのアップデート: サーバとエージェントのパターンファイルのバージョンの差分が 2 週間未満の場合。配信サイズは約 5MB 未満。
- フルパターンファイルのアップデート: サーバ/アップデート元よりもエージェントのパターンファイルのバージョンが 2 週間以上古い場合。配信サイズは約 80MB。

- エージェントのリモート Patch: リモートエージェント配信アップグレードパッケージでアップデート。配信サイズは約 70MB。

次の表は、配信に 5 分かかり、ネットワーク帯域幅の 50%が必要な場合に配信されるエージェントの数を示しています。

表 2-5. エージェントの配信計画

合計帯域幅 / 配信タスク	配信されるエージェント数			
	10Mbps	100Mbps	1000Mbps	10Gbps
差分パターン ファイルの アップデート	38	375	3750	37500
フルパターン ファイルの アップデート	2	23	234	2344
エージェントの リモート Patch	3	27	268	2679

使用するポートと FQDN

次の表に、StellarOne サーバで使用するポートを示します。

表 2-6. 使用するポートと FQDN

接続元	接続先	使用ポート	FQDN	機能
StellarProtect	StellarOne	9443、443	-	StellarOne の StellarProtect 待機ポート
StellarEnforce / StellarProtect Legacy Mode	StellarOne	8000、443	-	StellarOne の StellarEnforce / StellarProtect Legacy Mode 待機ポート
StellarOne	StellarProtect	14336	-	StellarProtect の 待機ポート

接続元	接続先	使用ポート	FQDN	機能
StellarOne	StellarEnforce / StellarProtect Legacy Mode	14336	-	StellarEnforce / StellarProtect Legacy Mode の 待機ポート
StellarOne	ライセンス (PR) サーバ	443	odc.cs.txone- networks.com	StellarOne が HTTPS を使用し てライセンスを 確認および更新 するために接続 するグローバル サーバポート
ブラウザ	StellarOne Web	443	-	StellarOne が HTTPS を使用し て Web にアクセ スするための待 機ポート
StellarOne	アップデート サーバ	443	StellarProtect: txsp- p.activeupdate.tr e ndmicro.com/ activeupdate StellarEnforce / StellarProtect Legacy Mode: txse- p.activeupdate.tr e ndmicro.com/ activeupdate	StellarOne が HTTPS を使用し たアップデート のために接続す るグローバル サーバポート



注意

次のポートは StellarOne のプライベートサービス専用であり、その他の目的では使用できません。

表 2-7. StellarOne 占有ポート

StellarOne 占有ポート	ポート番号
StellarEnforce / StellarProtect Legacy Mode 初期 設定ポート	8000
StellarProtect 初期設定ポート	9443
SSH	22
NTP	123
Web	443
StellarOne 内部サービス	25
	7590
	8888
	8889
	8999
	9091

第 3 章

インストール

この章では、TXOne StellarOne のインストール手順について説明します。StellarOne は Open Virtual Appliance (OVA) 形式でパッケージ化され、VMware ESXi、VMware Workstation、および Windows Hyper-V システムの 3 種類のハイパーバイザーをサポートしています。

この章の内容は次のとおりです。

- 21 ページの「[StellarOne のインストールフロー](#)」
- 21 ページの「[VMware ESXi への StellarOne のオンボーディング](#)」
- 32 ページの「[VMware Workstation への StellarOne のオンボーディング](#)」
- 38 ページの「[Windows Hyper-V への StellarOne のオンボーディング](#)」
- 55 ページの「[StellarOne の管理サーバ画面を開く](#)」

StellarOne のインストールフロー

StellarOne の管理サーバ画面をインストールするには、次の手順を実行します。

手順

1. VMware ESXi、VMware Workstation、または Windows Hyper-V システムベースの StellarOne 仮想マシンをデプロイします。
2. 50GB 以上の容量がある外部ハードディスクを StellarOne インスタンスに追加します。
3. StellarOne の管理サーバ画面にログオンして、管理者のアカウントを設定します。
4. StellarOne の管理サーバ画面にログオンして製品をアクティベートし、時間プロパティを設定します。
5. IP アドレスや通信用ポートなどを設定します。

VMware ESXi への StellarOne のオンボーディング

ここでは、StellarOne を VMware ESXi システムにデプロイする方法について説明します。

前提条件

- TXOne により提供される OVA パッケージが利用可能であり、VMware ESXi からアクセス可能であること。
- VMware ESXi のバージョンが 6.5.x 以降であること。
- 必要なネットワークが ESXi 用に適切に構築されていること。
- 50GB 以上の容量がある外部ディスクが追加されていること。

StellarOne を VMware ESXi システムにデプロイする

ここでは、StellarOne を VMware ESXi システムにデプロイする手順について説明します。

手順

1. VMware vSphere Web Client にログインします。
2. [ナビゲータ] で [ホスト]→[仮想マシンの作成/登録] の順にクリックします。



図 3-1. ナビゲータ

3. [OVF ファイルまたは OVA ファイルから仮想マシンをデプロイ] を選択します。



図 3-2. 作成タイプの選択

4. 新しい StellarOne 仮想マシンの名前を入力し、アップロードする StellarOne ディスクイメージを選択します。

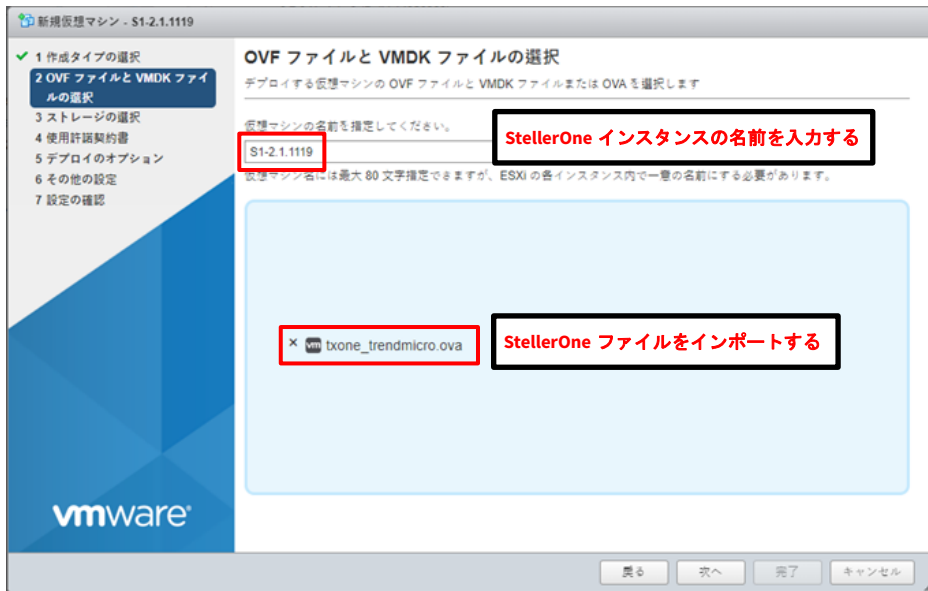


図 3-3. OVF ファイルと VMDK ファイルの選択

5. StellarOne 仮想マシンのストレージの場所を選択します。

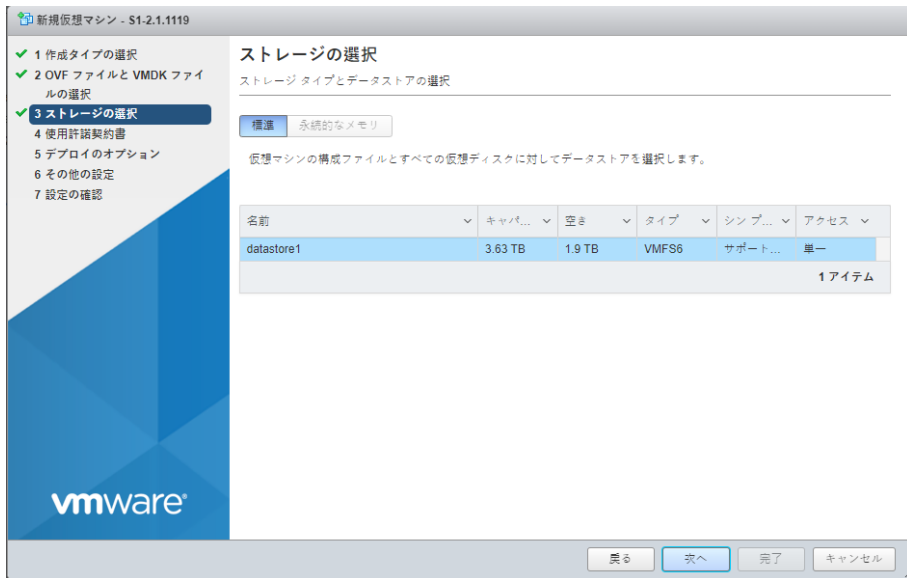


図 3-4. ストレージの選択

6. デプロイのオプションを選択します。

新規仮想マシン - S1-2.1.1119

✓ 1 作成タイプの選択

✓ 2 OVF ファイルと VMDK ファイルの選択

✓ 3 ストレージの選択

✓ 4 **デプロイのオプション**

5 設定の確認

デプロイのオプション

デプロイ オプションの選択

ネットワークのマッピング	NAT	VM Network
ディスク プロビジョニング	<input checked="" type="radio"/> シン <input type="radio"/> シック	
自動的にパワーオン	<input checked="" type="checkbox"/>	

vmware

戻る 次へ 完了 キャンセル

図 3-5. デプロイのオプション

7. [設定の確認] が表示されたら、[完了] をクリックしてデプロイを開始します。



図 3-6. 設定の確認

8. [最近のタスク] ペインに、StellarOne イメージがアップロードされていることを示す進行状況バーが表示されます。アップロードが完了するまで待ちます。
9. 50GB 以上の容量がある外部ディスクを StellarOne インスタンスに追加します。
- 開いている場合は、StellarOne インスタンスを閉じます。
 - 次の表に示すように、外部ディスクの容量は保存するログの数によって異なります。

ログの数	ディスク容量
90,000,000	150GB
60,000,000	100GB
30,000,000	50GB

外部 HDD の最適な仕様を決定するには、次の式を参照してください。

[1 つのエージェントで 1 日に出力されるログ数] × [ログの保存期間 (日数)] ×
[エージェントの合計数]

20,000 エージェントの場合の外部 HDD 容量

- 1 つのエージェントで 1 日に出力されるログ数: 100 イベント
- ログの保存期間 (日数): 30 日
- エージェントの合計数: 20,000 エージェント

ログの合計数: $100 \times 30 \times 20,000 = 60,000,000$ ログ

この場合、ストレージ容量が 100GB の外部ディスクが必要になります。

- c. 次の手順で外部ディスクを追加します。[アクション]→[設定の編集]→[ハードディスクの追加]→[保存]

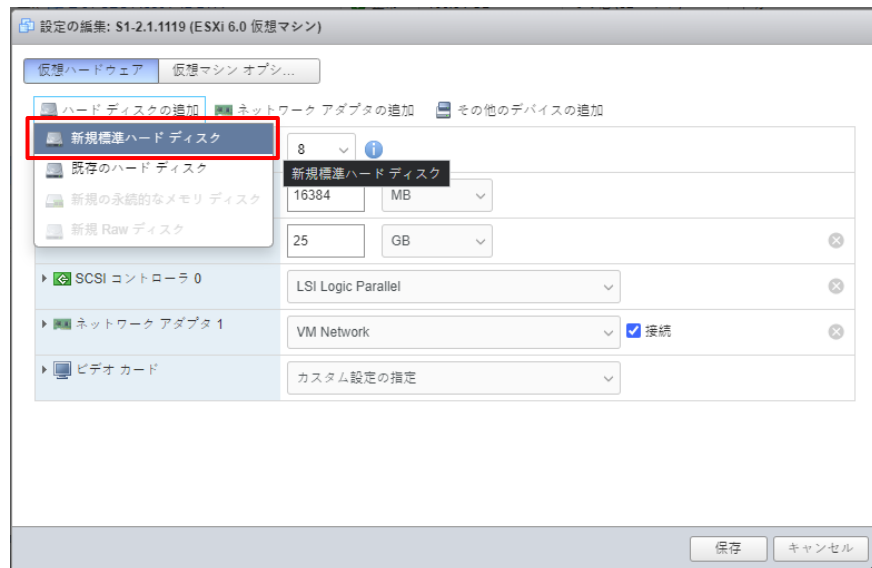


図 3-7. 設定の編集 - 新規ハードディスク



図 3-8. 設定の編集 - 新規ハードディスクの容量

- d. StellarOne で保存できるログの数を増やす必要がある場合は、次の手順を実行します。
 - i. StellarOne をシャットダウンします。
 - ii. 最大ログ要件に応じて外部ディスクの容量を増やします。
 - iii. StellarOne インスタンスを再起動します。その後、StellarOne のログファイル用に使用可能なストレージが拡張されます。
- e. 新しく起動した仮想マシンに既存の StellarOne 設定を移行する場合は、[70 ページの「StellarOne の 2.0 \(VMware\) へのアップグレード/移行」](#)を参照してください。



注意

- a. StellarOne には 1 台の外部ディスクが必要であり、その最小容量は 50GB 以上である必要があります。外部ディスクが要件を満たさない場合、StellarOne は初期化を終了できず、起動プロセスが完了しません。
- b. 外部ディスクはシステム設定とイベントログの保存に使用します。以前の設定とログを新しいインスタンスに移行する場合は、新しいディスクを追加する代わりに、停止した StellarOne インスタンスの外部ディスクを接続することもできます。

10. 仮想マシンの電源を入れます。



図 3-9. 電源投入された仮想マシン

11. (オプション) 初期設定 (8 コアの CPU、16GB のメモリ) に基づいて適切なリソース設定を使用するように StellarOne インスタンスを調整します。
 - a. StellarOne インスタンスをシャットダウンし、[編集] をクリックします。[設定の編集] 画面が表示されます
 - b. CPU コアの数を設定します。

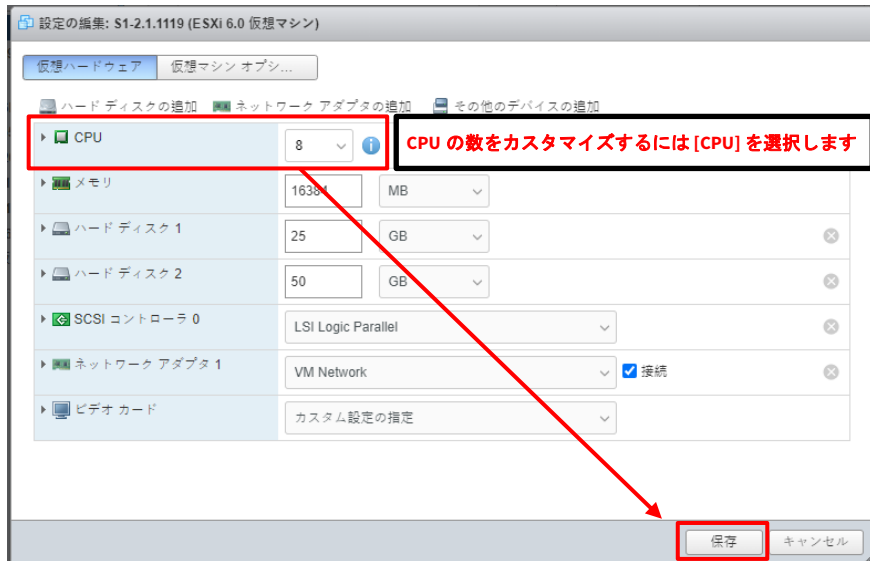


図 3-10. CPU コアの数を選択

- c. メモリ容量を設定します。



図 3-11. メモリの設定



注意

エージェントの配信に対する CPU とメモリの要件については、[14 ページの「VMware システムのハードウェア要件」](#)を参照してください。

- d. StellarOne インスタンスを起動します。

VMware Workstation への StellarOne のオンボーディング

ここでは、StellarOne を VMware Workstation システムにデプロイする方法について説明します。

前提条件

- TXOne により提供される OVA パッケージが利用可能であり、VMware Workstation からアクセス可能であること。
- VMware Workstation のバージョンが 16 以降であること。
- 必要なネットワークが VMware Workstation 用に適切に構築されていること。
- 50GB 以上の容量がある外部ディスクが追加されていること。

StellarOne を VMware Workstation にデプロイする

ここでは、StellarOne を VMware Workstation システムにデプロイする手順について説明します。

手順

1. VMware Workstation を起動し、メニューバーの [ファイル] をクリックします。
2. [開く] を選択して、インポートする StellarOne 仮想マシンイメージファイル (*.ova) を参照します。

- ローカルホストのファイルパスから StellarOne 仮想マシンイメージファイルを選択し、[インポート] をクリックします。

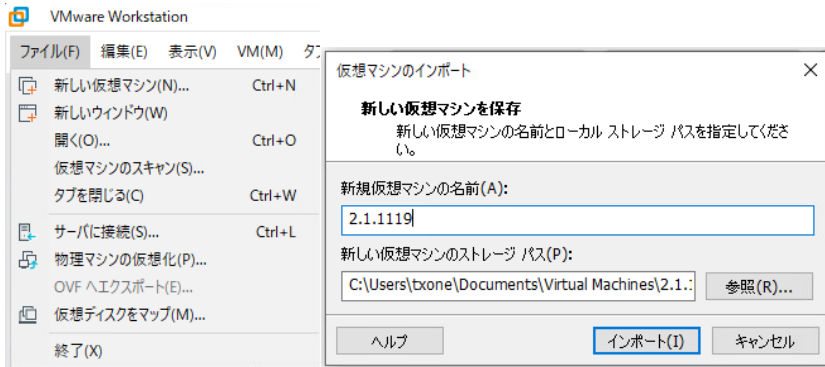


図 3-12. VMware Workstation へのファイルのインポート

- インポートした StellarOne 仮想マシンの詳細情報を確認します。



図 3-13. StellarOne 仮想マシンの詳細

5. 外部ハードディスクを追加します。
 - a. [仮想マシン設定の編集] をクリックします。
 - b. [追加...] をクリックし、ハードウェアの種類に [ハード ディスク] を選択します。

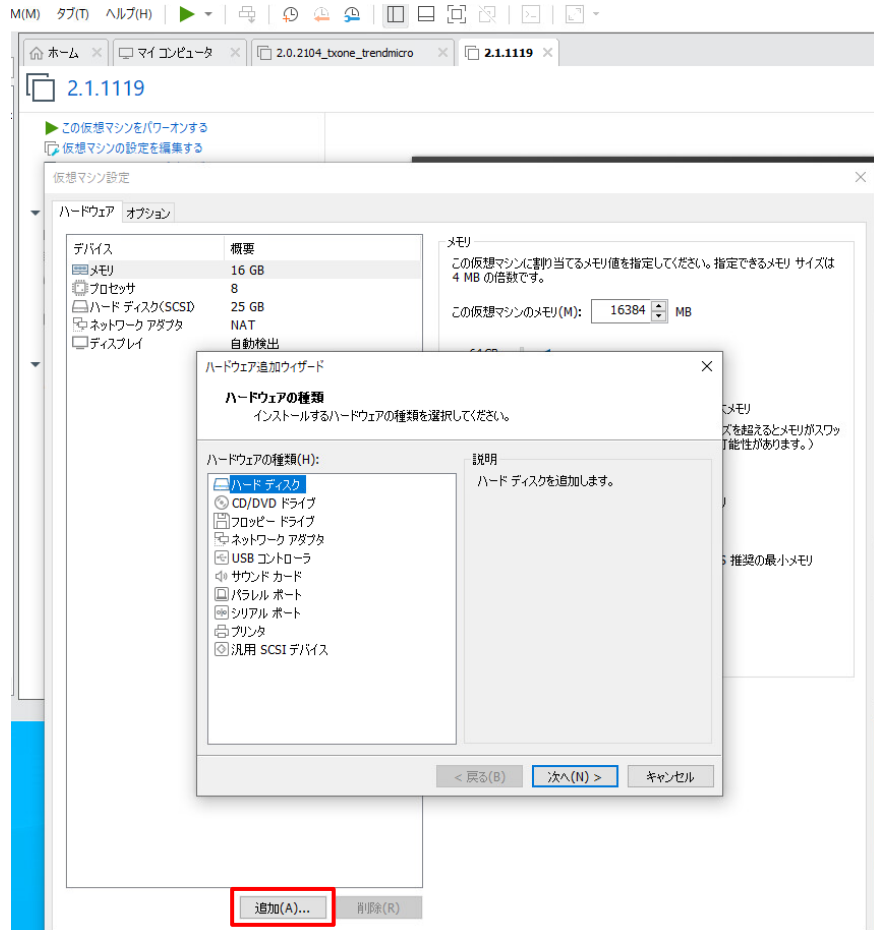


図 3-14. ハードディスクの追加

- c. ディスクタイプに [SCSI (推奨)] を選択します。
- d. ディスクの項目に [仮想ディスクの新規作成] を選択します。

- e. [ディスク最大サイズ (GB)] に 50 を設定します。

ハードウェア追加ウィザード

ディスク容量の指定
このディスクのサイズを指定してください。

ディスク最大サイズ (GB)(S):

その他の推奨サイズ: 8 GB

☐ 今すぐ全ディスク容量を割り当てる(A)。
最初から全サイズを割り当てておけばパフォーマンスが向上しますが、すべての物理ディスク容量が今すぐ利用可能である必要があります。全ディスク容量を事前に割り当てない場合、仮想ディスクは最初は小さなファイルとして存在し、データを追加するにつれて拡大していきます。

☐ 仮想ディスクを単一ファイルとして格納(O)

☒ 仮想ディスクを複数のファイルに分割(M)
ディスクを分割すると、仮想マシンを別のコンピュータに容易に移動できるようになりますが、非常に大きなディスクではパフォーマンスが低下する可能性があります。

< 戻る(B) **次へ(N) >** キャンセル

図 3-15. ハードウェア追加ウィザード

- f. ディスクの格納場所のパスを選択して、[完了] をクリックします。[仮想マシン設定] に新しい外部ディスクが作成されます。

仮想マシン設定

ハードウェア オプション

デバイス	概要
メモリ	16 GB
プロセッサ	8
ハードディスク(SCSI)	25 GB
新規ハードディスク(SCSI)	50 GB
ネットワークアダプタ	NAT
ディスプレイ	自動検出

ディスクファイル
2.1.1119-0.vmdk

容量
現在のサイズ: 6.3 MB
システム空き領域: 176.0 GB
最大サイズ: 50 GB

図 3-16. 仮想マシン設定のハードウェア概要

6. (オプション) 初期設定 (8 コアの CPU、16GB のメモリ) に基づいて適切なリソース設定を使用するように **StellarOne** インスタンスを調整します。
 - a. [仮想マシン設定の編集] をクリックします。
 - b. **StellarOne** インスタンスに割り当てる [メモリ] の容量を指定します。

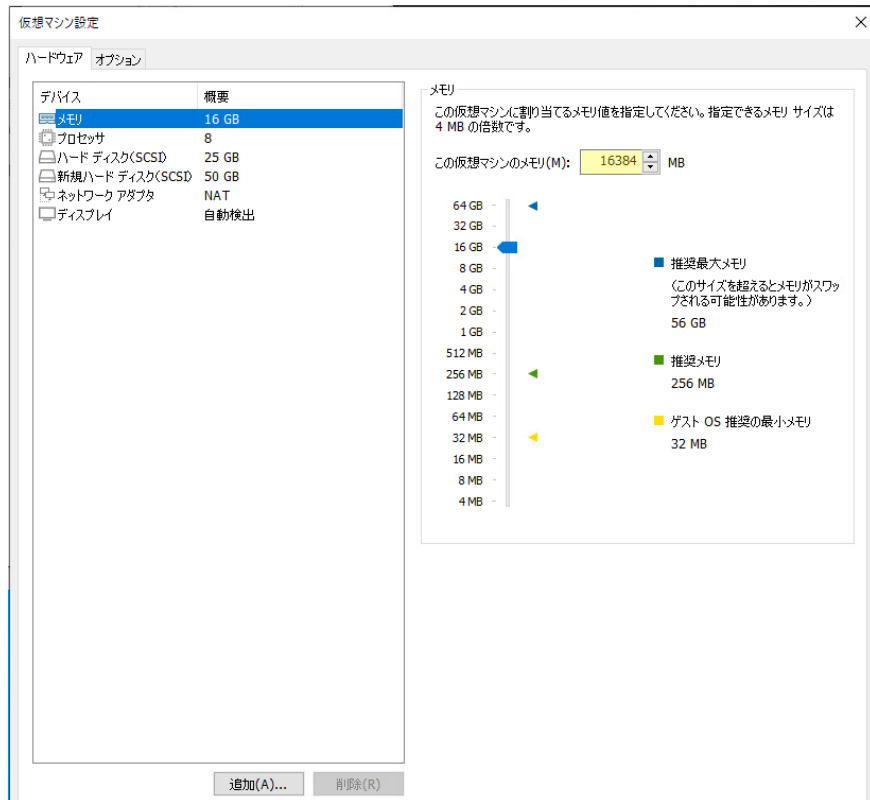


図 3-17. 仮想マシンのメモリ

7. (オプション) ネットワークアダプタの設定を [NAT] から [ブリッジ] に変更します。
 - a. StellarOne 仮想マシンアイコンを右クリックし、[設定] を選択します。
 - b. [ネットワーク アダプタ] を選択し、必要に応じて初期設定を [NAT] から [ブリッジ] に変更します。

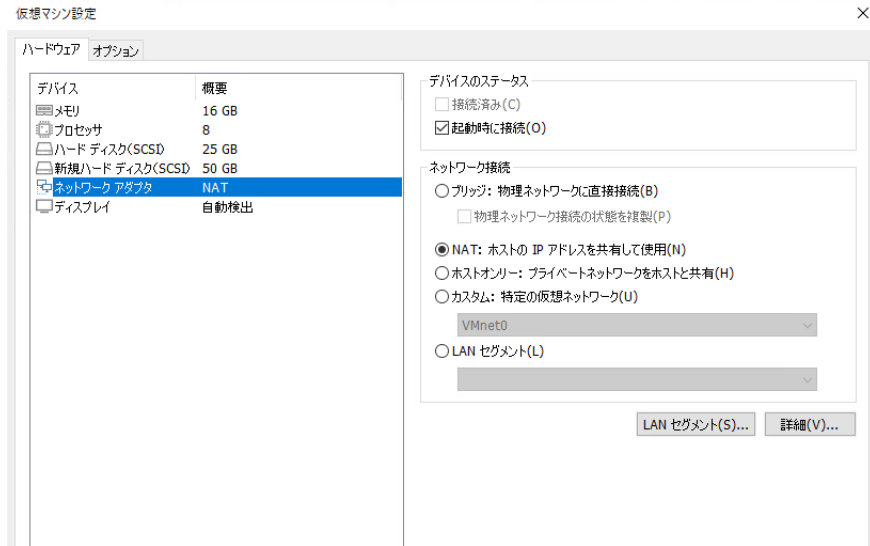


図 3-18. 仮想マシン設定のネットワークアダプタ

8. StellarOne 仮想マシンを起動します。StellarOne インスタンスが起動します。

Windows Hyper-V への StellarOne のオンボーディング

ここでは、StellarOne を Windows Hyper-V システムにデプロイする方法について説明します。

前提条件

- TXOne により提供される VHDX パッケージが利用可能であり、Windows Hyper-V からアクセス可能であること。
- Windows Server 2019、Hyper-V マネージャー (Windows 10 以降のバージョン) であること。
- 必要なネットワークが Windows Hyper-V 用に適切に構築されていること。
- 50GB 以上の容量がある外部ディスクが追加されていること。

StellarOne を Hyper-V システムにデプロイする

ここでは、StellarOne を Hyper-V システムにデプロイする手順について説明します。

手順

1. Hyper-V マネージャーを起動します。

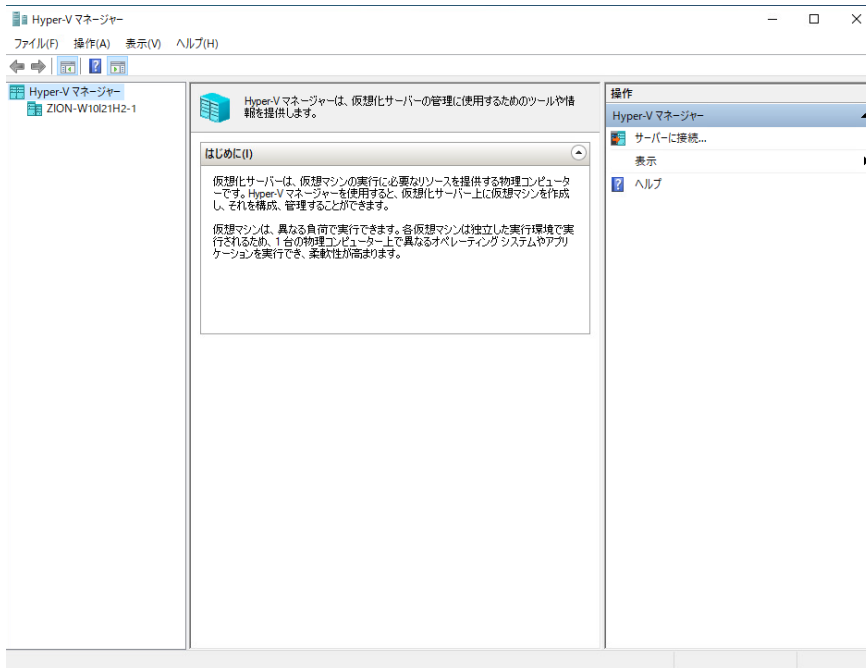


図 3-19. Hyper-V マネージャー

2. [操作]→[新規]→[仮想マシン] の順にクリックします。

3. [仮想マシンの新規作成ウィザード] で [次へ] をクリックします。

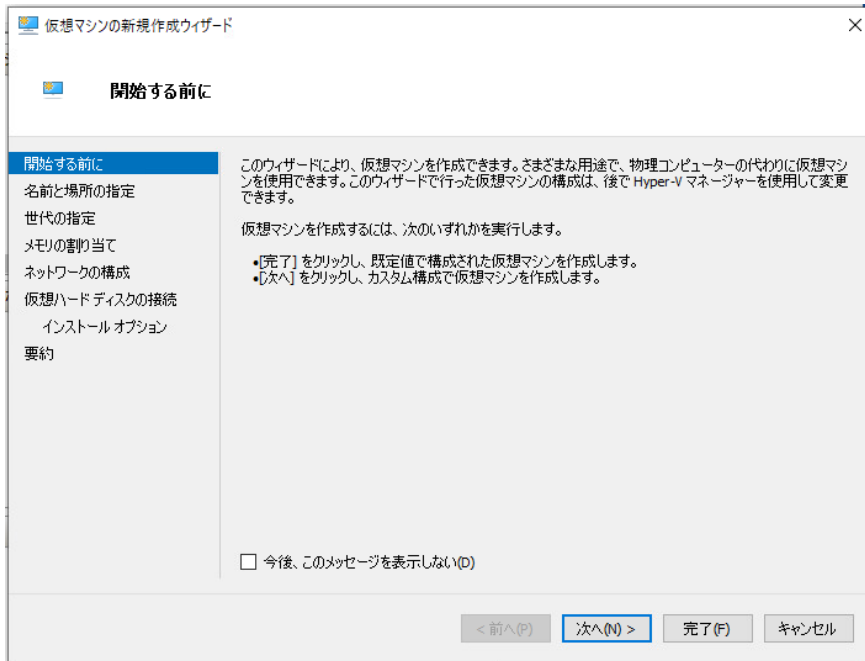
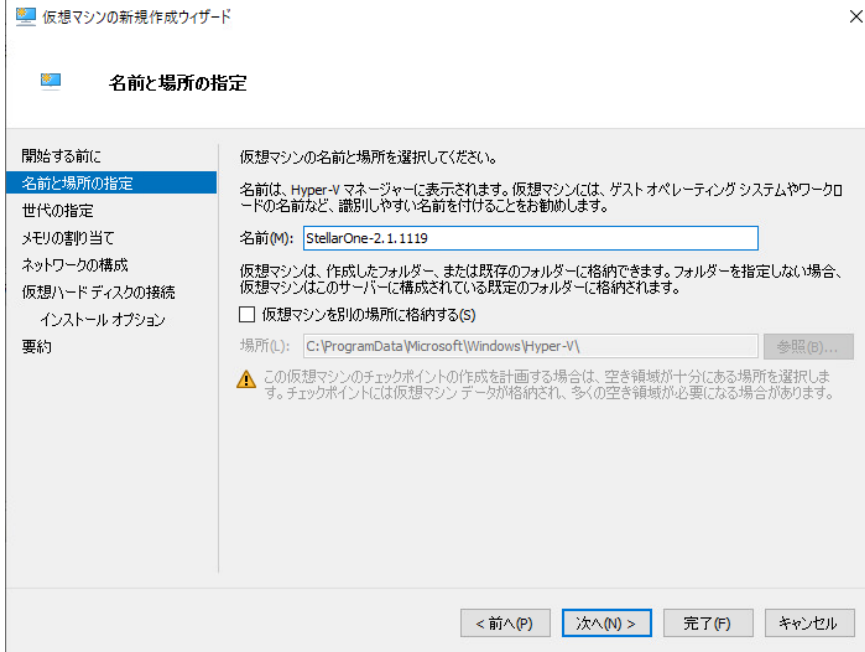


図 3-20. 仮想マシンの新規作成ウィザード: 開始する前に

4. [名前と場所の指定] で、新しい仮想マシンの名前を入力します。



仮想マシンの新規作成ウィザード

名前と場所の指定

開始する前に
名前と場所の指定
 世代の指定
 メモリの割り当て
 ネットワークの構成
 仮想ハードディスクの接続
 インストール オプション
 要約

仮想マシンの名前と場所を選択してください。


名前は、Hyper-V マネージャーに表示されます。仮想マシンには、ゲスト オペレーティング システムやワークロードの名前など、識別しやすい名前を付けることをお勧めします。

名前(M):

仮想マシンは、作成したフォルダー、または既存のフォルダーに格納できます。フォルダーを指定しない場合、仮想マシンはこのサーバーに構成されている既定のフォルダーに格納されます。

☐ 仮想マシンを別の場所に格納する(S)

場所(L): 参照(B)...

 この仮想マシンのチェックポイントの作成を計画する場合は、空き領域が十分にある場所を選択します。チェックポイントには仮想マシン データが格納され、多くの空き領域が必要になる場合があります。

< 前へ(P) **次へ(N) >** 完了(F) キャンセル

図 3-21. 仮想マシンの新規作成ウィザード: 名前と場所の指定

5. [世代の指定] で[第 1 世代] を選択します。

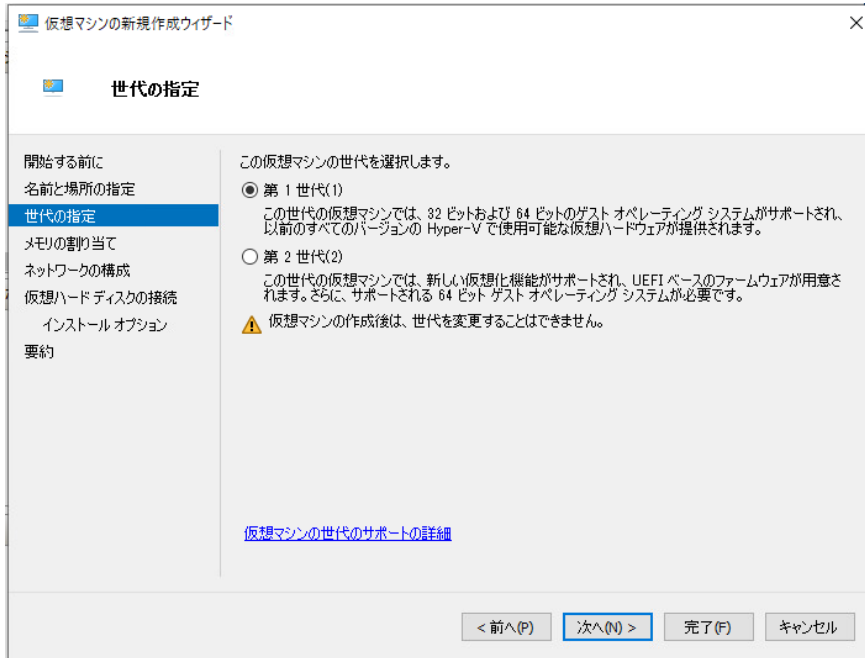


図 3-22. 仮想マシンの新規作成ウィザード: 世代の指定

6. [メモリの割り当て] で、新しい仮想マシンにメモリを割り当てます。

図 3-23. 仮想マシンへのメモリの割り当て



注意

StellarOne には 8GB 以上のメモリが必要です。

7. 仮想マシンのネットワークを設定します。

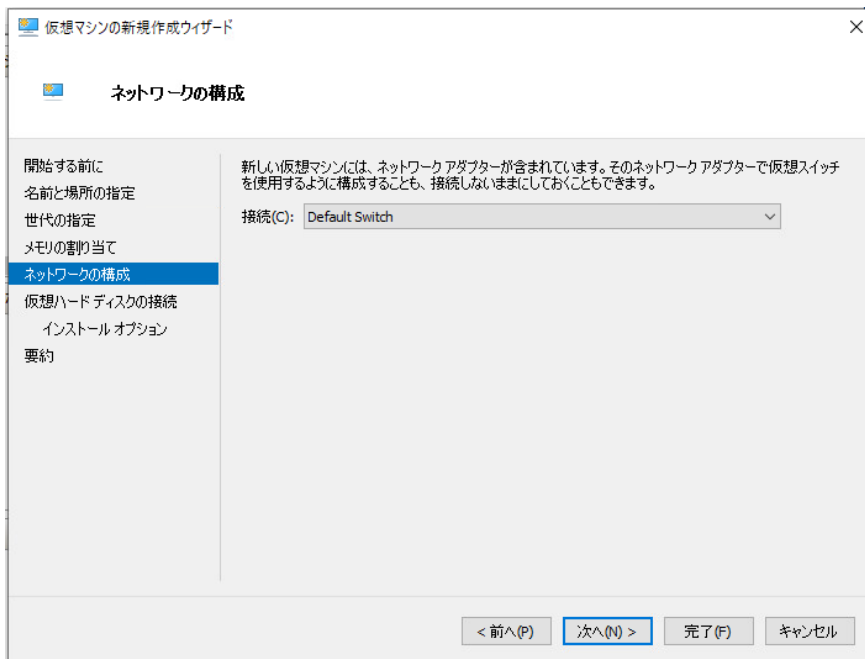


図 3-24. 仮想マシンのネットワークの設定

8. 仮想ハードディスクを選択します (StellarOne の.vhdx ファイルを選択)。

仮想マシンの新規作成ウィザード

仮想ハード ディスクの接続

開始する前に
 名前と場所の指定
 世代の指定
 メモリの割り当て
 ネットワークの構成
仮想ハード ディスクの接続
 要約

仮想マシンには、オペレーティング システムをインストールするための記憶域が必要です。記憶域を今指定することも、後で仮想マシンのプロパティを変更して構成することもできます。

☐ 仮想ハード ディスクを作成する(C)
 VHDX フォーマットの容量可変の拡張仮想ハード ディスクを作成するには、このオプションを使用します。

名前(N): StellarOne-2.1.1119.vhdx
 場所(L): C:\ProgramData\Microsoft\Windows\Virtual Hard Disks\ 参照(B)...
 サイズ(S): 127 GB (最大: 64 TB)

☒ 既存の仮想ハード ディスクを使用する(U)
 VHD フォーマットまたは VHDX フォーマットの既存の仮想ハード ディスクを接続するには、このオプションを使用します。

場所(O): E:\2.1.1119.vhdx\2.1.1119.vhdx 参照(B)...

☐ 後で仮想ハード ディスクを接続する(A)
 この手順を今はスキップし、後で既存の仮想ハード ディスクを接続するには、このオプションを使用します。

< 前へ(P) 次へ(N) > 完了(F) キャンセル

図 3-25. 仮想ハードディスクの接続

9. 設定を確認して、[完了]をクリックします。

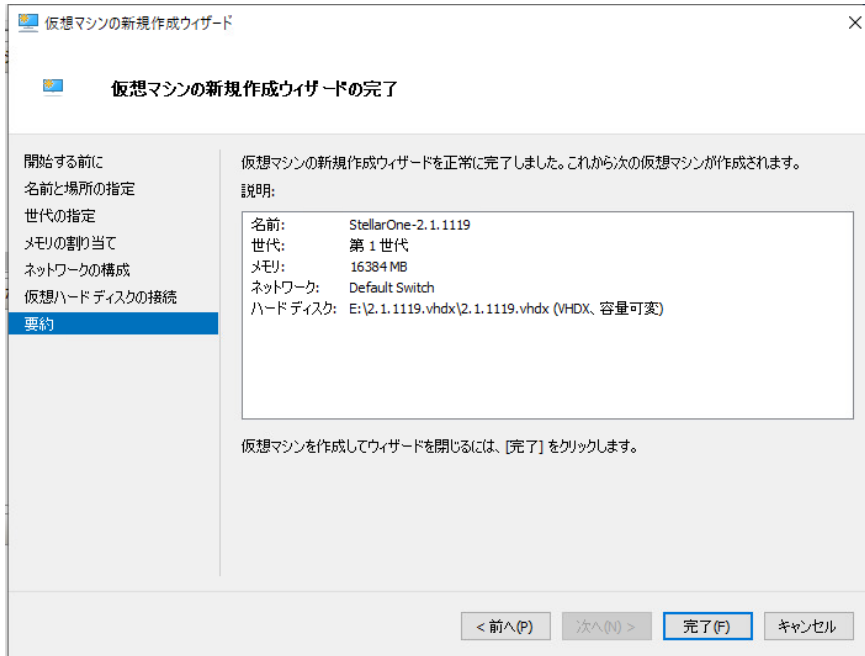


図 3-26. 仮想マシンの新規作成ウィザードの完了

10. 仮想マシンに対する新しいディスクを追加します。



注意

以前の StellarOne がオフになっていることを確認します。

仮想マシン(I)			
名前	状態	CPU 使用率	メモリの割り当て
StellarOne-2.1.1119	オフ		

図 3-27. 以前の StellarOne がオフになっている状態

- 仮想マシンを選択して右クリックし、表示されるメニューから [設定] を選択します。
- [ハード ドライブ] を選択し、[追加] をクリックします。

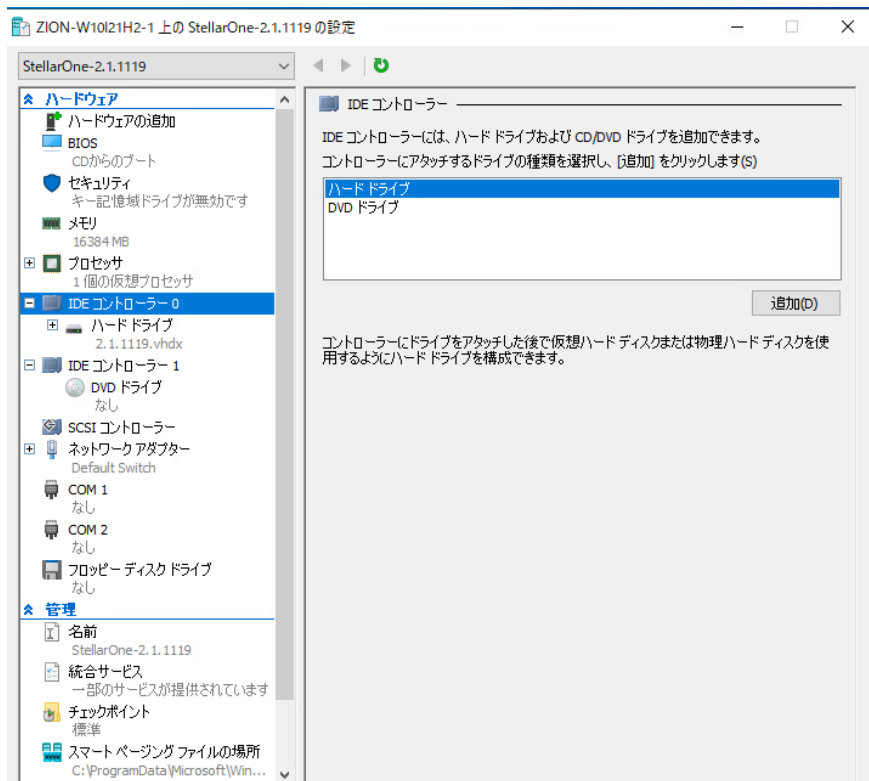


図 3-28. StellarOne の設定 -1

- c. [新規] をクリックします。

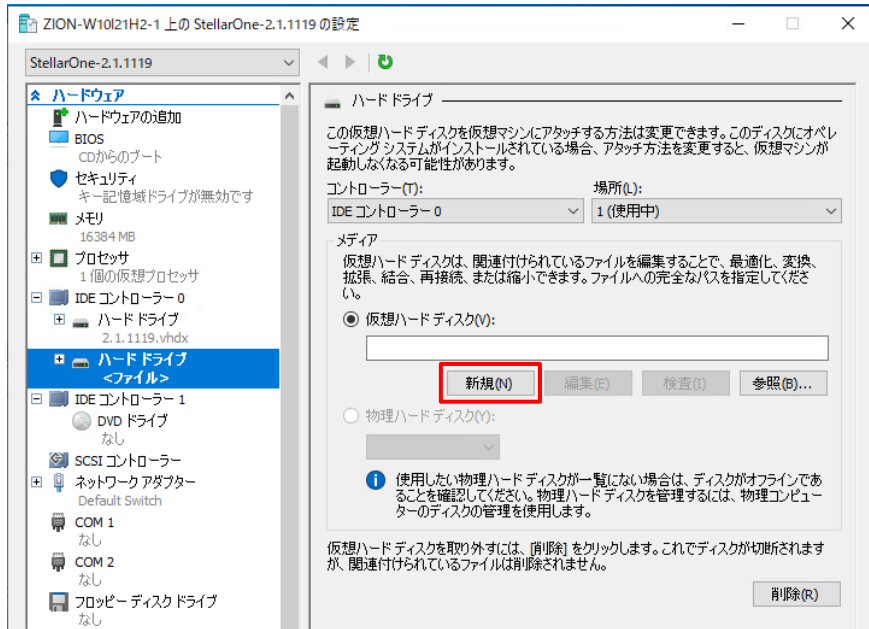


図 3-29. StellarOne の設定 -2

- d. [ディスク フォーマットの選択] で、ディスクフォーマットに [VHDX] を選択します。

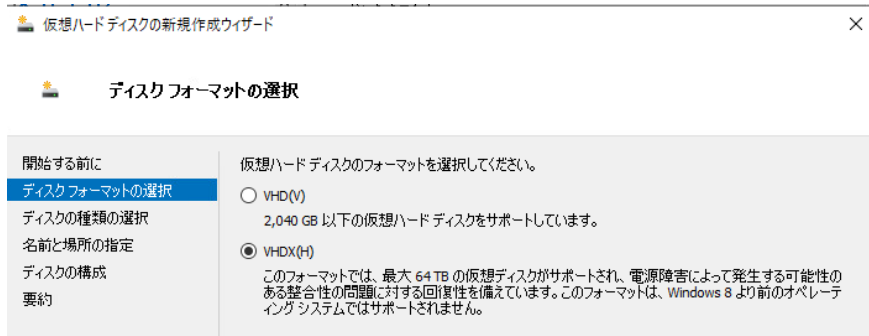



図 3-30. ディスクフォーマットの選択

- e. [ディスクの種類の選択] で、ディスクの種類に [容量可変] を選択します。

 仮想ハードディスクの新規作成ウィザード

×

ディスクの種類の選択

開始する前に	作成する仮想ハードディスクの種類を選択してください。 <input type="radio"/> 容量固定(X) この種類のディスクはパフォーマンスが高いため、ディスクアクセスの多いアプリケーションを実行するサーバーに推奨されます。作成される仮想ハードディスクファイルは仮想ハードディスクのサイズを最初から使用し、データが削除または追加されてもサイズは変化しません。 <input checked="" type="radio"/> 容量可変(D) この種類のディスクでは物理記憶域が有効に利用されるので、多くのディスク領域を使用しないアプリケーションを実行するサーバーに推奨されます。作成される仮想ハードディスクファイルは最初は小さく、データが追加されるとサイズが変化します。 <input type="radio"/> 差分(I) この種類のディスクは、他のディスクと親子関係で関連付けられ、関連付けられた先のディスクは変更されません。ディスクに影響を与えることなく、データやオペレーティングシステムに変更を加えることができるため、簡単に変更を元に戻すことができます。すべての子は、親と同じ仮想ディスクフォーマット (VHD または VHDX) である必要があります。
ディスクフォーマットの選択	
ディスクの種類の選択	
名前と場所の指定	
ディスクの構成	
要約	

図 3-31. ディスクの種類の選択

- f. 仮想ハードディスクファイルの名前と場所を指定します。

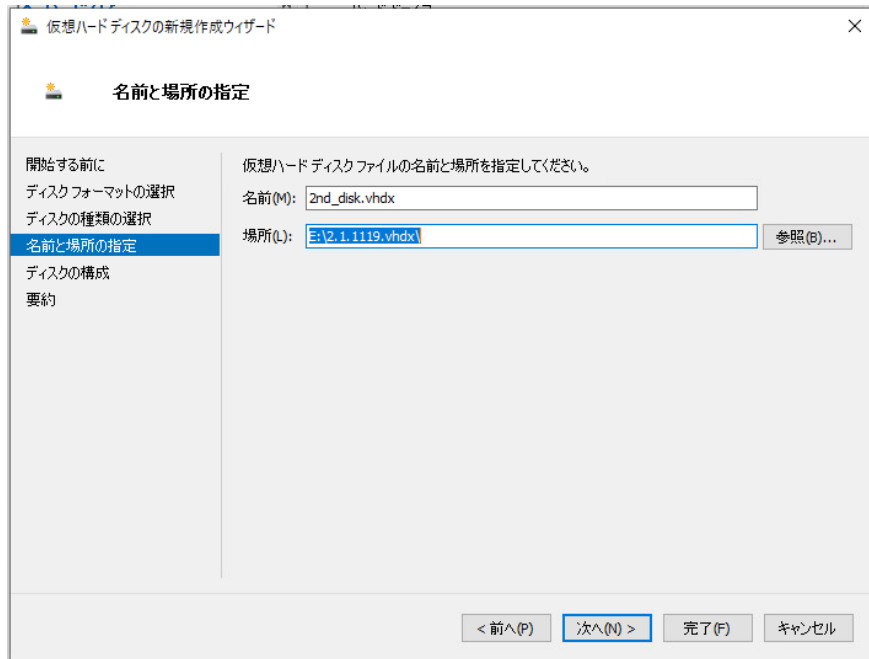


図 3-32. 名前と場所の指定

- g. ディスクのサイズを設定します。



注意

StellarOne に適切なディスクのサイズを決定するには、14 ページの「[VMware 用のサイジング表](#)」を参照してください。

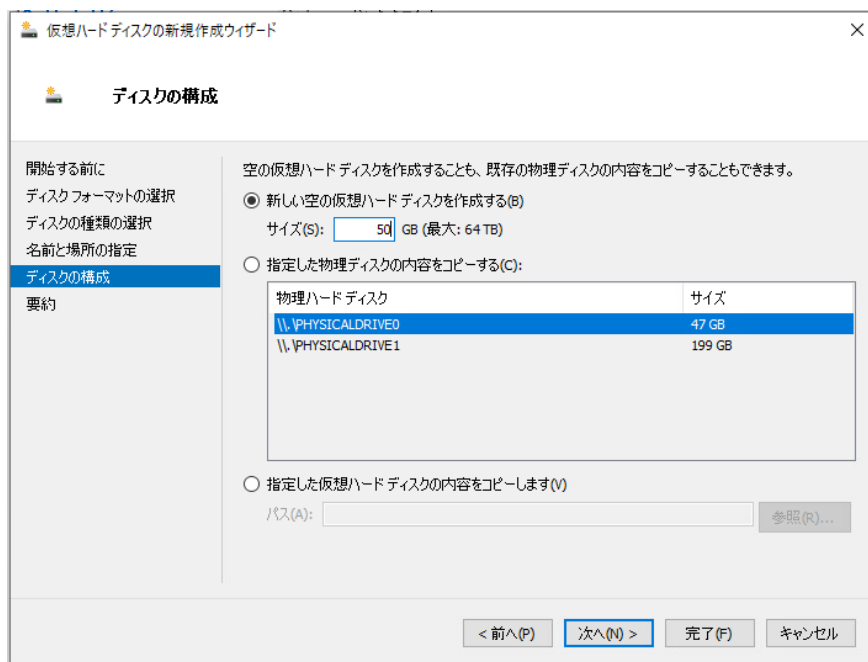


図 3-33. StellarOne のディスクの設定

- h. [完了] をクリックします。

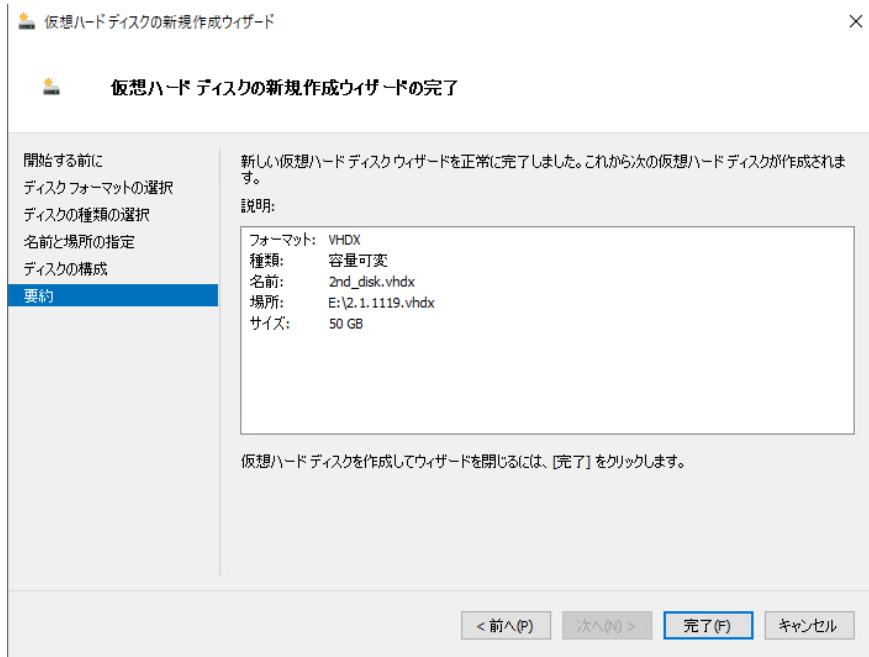


図 3-34. 仮想ハードディスクの新規作成ウィザードの完了

11. (オプション) エージェントの配信に対する CPU とメモリの要件および対応する StellarOne の設定とリソースの割り当てを決定するには、15 ページの「Hyper-V システムのハードウェア要件」を参照してください。少なくとも初期設定 (4 コアの CPU、16GB のメモリ) を使用することをお勧めします。
 - a. **StellarOne** インスタンスをシャットダウンします。インスタンスを選択して右クリックし、[設定] をクリックします。

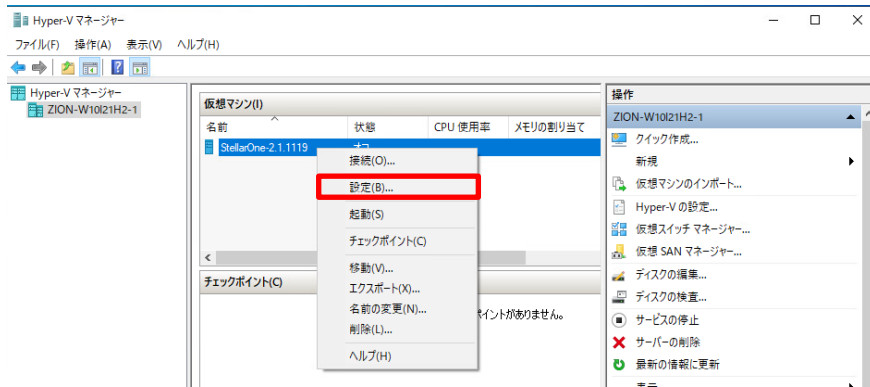


図 3-35. StellarOne の設定

- b. [プロセッサ] で、仮想プロセッサの数とリソースコントロール設定を指定します。

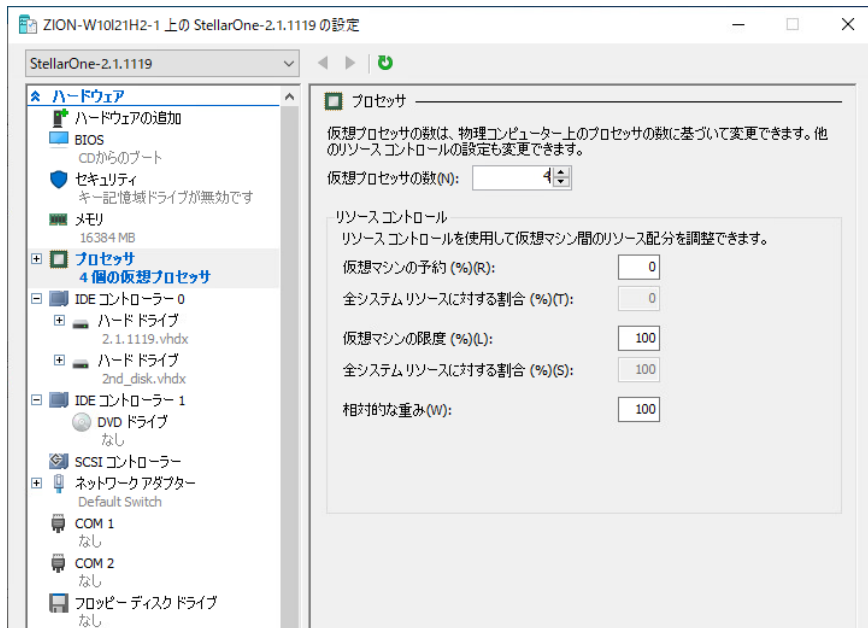


図 3-36. StellarOne の設定のプロセッサ設定

- c. [メモリ] で、メモリ容量を設定します。

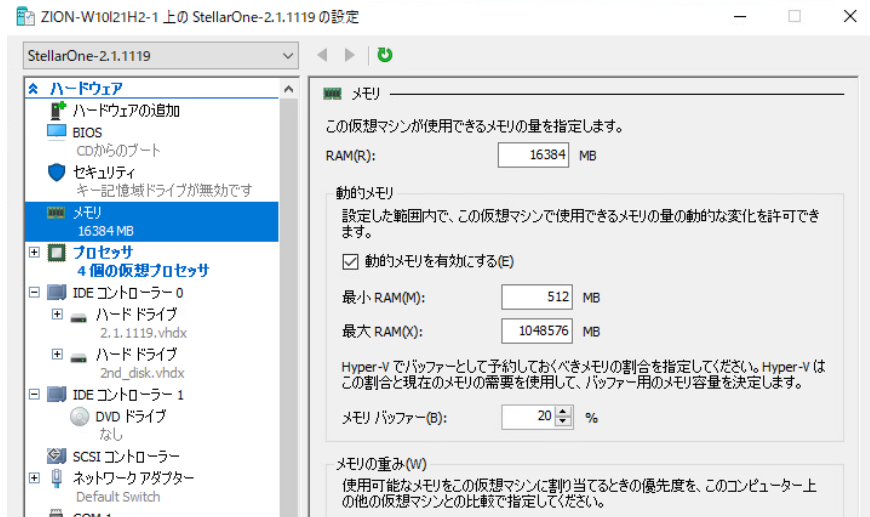


図 3-37. StellarOne の設定のメモリ設定

- d. StellarOne インスタンスを起動します。

StellarOne の管理サーバ画面を開く

手順

1. Web ブラウザから次の形式で StellarOne のアドレスを入力します。https://<対象サーバの IP アドレス>ログオン画面が表示されます。
2. 資格情報 (ユーザ名とパスワード) を入力します。

初回ログオン時には、次の初期設定の管理者資格情報を入力します。

- ユーザ名: **admin**
- パスワード: **txone**

3. [ログオン] をクリックします。
4. StellarOne の管理サーバ画面をはじめて使用する場合は、次の手順で初期設定を実行します。

- a. [ログイン情報の設定] 画面が表示され、パスワードを変更するように求められます。次の手順でパスワードの設定を確認します。
 - ・ [新しいパスワード] に新しいパスワードを入力します。
 - ・ [パスワードの確認] にパスワードを再度入力します。
- b. [確認] をクリックします。自動的にログアウトされます。[ログオン] 画面が再度表示されます。
- c. 新しい資格情報を使用して、再度ログオンします。
- d. 最初のアクティベーションコードを入力して、[続行] をクリックします。別の製品のアクティベーションコードを入力する場合は、[続行] の代わりに [別のコードを入力してください] をクリックします。
- e. [エンドユーザ使用許諾契約および TXOne OT Intelligent Trust への同意] 画面が表示されます。リンクをクリックしてドキュメントを読み、「同意する」 ボタンを押して次の手順に進みます。

エンドユーザ使用許諾契約および TXOne OT Intelligent Trust

これらのドキュメントをすべてお読みください。チェックボックスをオンにして、次の契約内容を読んだうえで同意したことを示してください。

☐ エンドユーザ使用許諾契約に同意する

☐ TXOne OT Intelligent Trustに同意する

☒ TXOne OT Intelligent Trustを有効にする (推奨)

同意する



注意

セキュリティの配信を強化するために、TXOne OT Intelligent Trust は有効にすることをお勧めします。詳細については、[57 ページの「OT Intelligent Trust」](#)を参照してください。

- f. [日付と時刻] や [タイムゾーン] などの時間設定を指定して、[続行] をクリックします。
 - g. StellarOne の管理サーバ画面が使用可能になります。
5. 初期設定が完了すると、さまざまなユーザアカウントで Web ブラウザを使用して、リモートから StellarOne にログオンできるようになります。
 6. (オプション) 画面の右上角の ID アイコンをクリックし、[パスワードの変更] をクリックすることでパスワードを変更できます。
 7. (オプション) セキュリティ上の理由から必要な場合は、画面の右上角の ID アイコンをクリックし、[ログオフ] をクリックすることにより手動でログオフできます。



注意

30 分間操作が行われないと、ユーザは自動的に管理サーバ画面からログオフされます。

OT Intelligent Trust

TXOne OT Intelligent Trust を有効にすると、匿名の脅威情報が Smart Protection Network と共有され、新たな脅威を迅速に特定して対処できるようになります。TXOne OT Intelligent Trust は、管理サーバ画面からいつでも無効にできます。

第 4 章

コマンドラインでの StellarOne の設定

この章では、コマンドラインを使用した TXOne StellarOne の設定方法について説明します。

この章の内容は次のとおりです。

- 59 ページの「[StellarOne のコマンドラインの使用](#)」
- 60 ページの「[コマンドラインを使用した IP アドレスの設定](#)」
- 62 ページの「[コマンドラインを使用した通信用ポートの変更](#)」
- 65 ページの「[コマンドラインを使用した言語設定および StellarOne 表示モードの変更](#)」
- 68 ページの「[コマンドラインを使用した vShell での Docker ネットワークの管理](#)」

StellarOne のコマンドラインの使用

ここでは、StellarOne にログオンし、コマンドラインを使用して、使用可能なコマンドのリストを取得する方法について説明します。

手順

1. StellarOne の仮想マシンコンソールを開きます。
2. ユーザ名 **root**、パスワード **txone** を入力してログオンします。
3. StellarOne の管理サーバ画面にログオンしたら、**help** コマンドを入力して、使用可能なコマンドのリストを表示します。

```
$ help
vShell, version
The commands provided in:
  access-list  Manage the IP whitelists
  dx           Curl the target server.
  env          Manage system environment variables
  exit         Exit this shell
  help        List all command usage
  iface        Manage the network interfaces
  ping         Test the reachability of a host
  poweroff     Shut down the machine immediately
  pwd          Change the root user password
  reboot       Restart the machine immediately
  resolv       Manage the domain name server
  scp          Send files via scp
  ssh          SSH to a device
  service      Manage the device center services
  sftp         Send files via sftp
  web          Commands of the device center web
  stellar      Commands of the Stellar products
  locale       Locale setting
  network      Manage network of the StellarOne service

Shortcut table:
  Tab          Auto-complete or choose the next suggestion on the list
  Ctrl + A     Go to the head of the line (Home)
  Ctrl + E     Go to the tail of the line (End)
  Ctrl + D     Delete the character located at the cursor
  Ctrl + L     Clear the screen
$
```

図 4-1. StellarOne のコマンドライン

コマンドラインを使用した IP アドレスの設定

ここでは、コマンドラインを使用して、StellarOne インスタンスの IP アドレスを設定する手順について説明します。

手順

1. `iface ls` と入力して、StellarOne インスタンスの IP アドレスを取得します。

```
$ iface ls
[
  {
    "Name": "lo",
    "Family": "inet",
    "Method": "loopback"
  },
  {
    "Name": "eth0",
    "Family": "inet",
    "Method": "dhcp"
  }
]
1: lo: <LOOPBACK,UP,LOWER_UP> mtu 65536 qdisc noqueue state UNKNOWN group default qlen 1000
   link/loopback 00:00:00:00:00:00 brd 00:00:00:00:00:00
   inet 127.0.0.1/8 scope host lo
       valid_lft forever preferred_lft forever
   inet6 ::1/128 scope host
       valid_lft forever preferred_lft forever
2: eth0: <BROADCAST,MULTICAST> mtu 1500 qdisc pfifo_fast state DOWN group default qlen 1000
   link/ether 00:0c:29:2c:12:89 brd ff:ff:ff:ff:ff:ff
   altnme enp2s0
   altnme ens32
$
```

図 4-2. StellarOne の IP アドレスの取得

2. `iface update` コマンドを入力して、現在のネットワークインタフェースの設定をアップデートします。たとえば次のコマンドは、インタフェース **eth0** に、静的 IP アドレス 10.7.19.157/24 とゲートウェイ IP アドレス 10.7.19.254 を設定します。

```
iface update eth0 --method static --address 10.7.19.157 -- netmask 255.255.255.0 -- gateway
10.7.19.254
```

3. ネットワークインタフェースの設定が正しいことを確認し、次のコマンドを入力して、変更を実行します。

```
iface restart eth0
```

4. 次のコマンドを再度入力して、新しいネットワークインタフェースの設定を表示します。

```
iface ls
```

```
$
$ iface ls
[
  {
    "Name": "lo",
    "Family": "inet",
    "Method": "loopback"
  },
  {
    "Name": "eth0",
    "Family": "inet",
    "Method": "static",
    "Address": "10.7.19.157",
    "Netmask": "255.255.255.0",
    "Gateway": "10.7.19.254"
  }
]
1: lo: <LOOPBACK,UP,LOWER_UP> mtu 65536 qdisc noqueue state UNKNOWN group default qlen 1000
    link/loopback 00:00:00:00:00:00 brd 00:00:00:00:00:00
    inet 127.0.0.1/8 scope host lo
        valid_lft forever preferred_lft forever
    inet6 ::1/128 scope host
        valid_lft forever preferred_lft forever
2: eth0: <BROADCAST,MULTICAST,UP,LOWER_UP> mtu 1500 qdisc pfifo_fast state UP group default qlen 1000
    link/ether 00:0c:29:2c:12:89 brd ff:ff:ff:ff:ff:ff
    altname enp2s0
    altname ens32
    inet 10.7.19.157/24 brd 10.7.19.255 scope global eth0
        valid_lft forever preferred_lft forever
    inet6 fe80::20c:29ff:fe2c:1289/64 scope link
        valid_lft forever preferred_lft forever
$
```

図 4-3. 新しいネットワーク設定の表示

5. `resolv add` コマンドを使用して DNS サーバを追加し、`resolv ls` コマンドを使用して DNS サーバのリストを表示します。たとえば、次のコマンドは DNS サーバのリストに 8.8.8.8 を追加します。

```
resolv mode custom
```

```
resolv add 8.8.8.8
```

6. 次のコマンドを入力して、DNS サーバの設定を表示します。

```
resolv ls
```

```
$ resolv mode custom
$ resolv add 8.8.8.8
8.8.8.8 is added
$ resolv ls
Custom Mode
8.8.8.8
```

図 4-4. DNS サーバの設定の表示

7. 次のコマンドを入力して、仮想マシンを再起動します。

```
reboot
```

コマンドラインを使用した通信用ポートの変更

ここでは、コマンドラインを使用して、StellarOne インスタンスの通信用ポートを変更する方法について説明します。

手順

1. `env ls` コマンドを入力して、現在の通信用ポートのリストを表示します。

```
$ env ls
Hostname:                ODC
Status:                  RUNNING
Product Serial Number:   f549abf0-835c-11ed-97fa-000c292c1289
Version:                 2.0.1160
External IP:             Not Set
DPI Engine Version:      2.0.11.33e2e1
DPI Pattern Version:     SDP_220415_11
Stellar Enforce Agent Up Port:8000
Stellar Enforce Agent Down Port:14336
Stellar Protect Agent Up Port:9443
Stellar Protect Agent Down Port:14336
Locale:                  en
```

図 4-5. 現在の通信用ポートのリスト

2. `stellar` コマンドを入力して、選択可能なエージェントを表示します。

```
$ stellar
set-enforce-ports Edit the communication ports for Stellar Enforce agents
set-protect-ports Edit the communication ports for Stellar Protect agents
```

図 4-6. 選択可能なエージェント

3. 通信用ポートを編集するエージェントを選択します。

```
$ stellar set-enforce-ports
set-enforce-ports Edit the communication ports for Stellar Enforce agents
set-protect-ports Edit the communication ports for Stellar Protect agents
```

図 4-7. 通信用ポートを編集するエージェントの選択

4. `<up-port>` と `<down-port>` に有効な値を入力します。
 - `<up-port>`: エージェントからデータを受信するポート
 - `<down-port>`: エージェントにコマンドを送信するポート



注意

StellarOne のサービスポートは使用しないでください。17 ページの「使用するポートと FQDN」の表 2-7. 「StellarOne 占有ポート」を参照してください。

```
$ stellar set-enforce-ports 8000 14336
Port for receiving data from Stellar Enforce agents: 8000
Port to send commands to Stellar Enforce agents: 14336

Successfully set up ports for Stellar Enforce.
Please reload services to take effect.
```

図 4-8. エージェントの通信用ポート

5. 再起動します。



重要

以前にインストールしたパッケージには、新しいポート設定は含まれないことに注意してください。コマンドラインを使用して **StellarOne** の通信用ポートを変更したら、次のいずれかの操作を実行します。

- 新しいポート設定を含むエージェントのインストーラパッケージを **StellarOne** からダウンロードし、エージェントにインストールします。
- エージェントの既存のインストーラパッケージ内の `setup.ini` または `setup.yaml` ファイルでポートの設定を適切に変更し、そのパッケージをエージェントに再インストールします。

コマンドラインを使用した言語設定および StellarOne 表示モードの変更

ここでは、コマンドラインを使用して、StellarOne の言語設定および StellarEnforce 表示モードを変更する方法について説明します。StellarOne の管理サーバ画面の初期設定の言語は英語です。また、StellarEnforce 表示モードの初期値はオフです。

StellarEnforce 表示モードがオフの場合、StellarProtect (Legacy Mode) エージェントおよび StellarEnforce エージェントは StellarOne 上で **StellarProtect (Legacy Mode)** と表示されます。

StellarEnforce 表示モードがオンの場合、StellarProtect (Legacy Mode) エージェントおよび StellarEnforce エージェントは StellarOne 上で **StellarEnforce** と表示されます。

手順

1. 下記コマンドを入力して、StellarOne の表示言語と、StellarProtect (Legacy Mode) と StellarEnforce のどちらを表示するかを切り替えることができます。表示言語の初期値は英語、StellarOne で表示するエージェント名の初期値は StellarProtect (Legacy Mode) です。

コマンド	表示言語	StellarOne で表示するエージェント名
<code>locale ja</code>	日本語	StellarProtect (Legacy Mode)
<code>locale en</code>	英語	StellarProtect (Legacy Mode)
<code>locale ja-enforce</code>	日本語	StellarEnforce
<code>locale en-enforce</code>	英語	StellarEnforce



注意

初期値では、表示言語は英語で、StellarProtect (Legacy Mode)、StellarEnforce の両方とも StellarProtect (Legacy Mode) と表示されます。`locale ja-enforce` または `locale en-enforce` のどちらかを入力することにより、StellarProtect (Legacy Mode)、StellarEnforce の両方とも StellarEnforce と表示されます。

2. StellarOne の管理サーバ画面を再ロードします。

```
$ help
vShell, version
The commands provided in:
  access-list  Manage the IP whitelists
  dx           Curl the target server.
  env          Manage system environment variables
  exit         Exit this shell
  help        List all command usage
  iface       Manage the network interfaces
  ping        Test the reachability of a host
  poweroff    Shut down the machine immediately
  pwd         Change the root user password
  reboot      Restart the machine immediately
  resolv      Manage the domain name server
  scp         Send files via scp
  ssh         SSH to a device
  service     Manage the device center services
  sftp        Send files via sftp
  web         Commands of the device center web
  stellar     Commands of the Stellar products
  locale      Locale setting
  network     Manage network of the StellarOne service

Shortcut table:
  Tab         Auto-complete or choose the next suggestion on the list
  Ctrl + A    Go to the head of the line (Home)
  Ctrl + E    Go to the tail of the line (End)
  Ctrl + D    Delete the character located at the cursor
  Ctrl + L    Clear the screen

$ locale ja-enforce
Successfully language setting for locale.
Please reload StellarOne console to take effect.
$ _
```

```
$
$ help
vShell, version
The commands provided in:
  access-list    Manage the IP whitelists
  dx             Curl the target server.
  env           Manage system environment variables
  exit          Exit this shell
  help          List all command usage
  iface         Manage the network interfaces
  ping          Test the reachability of a host
  poweroff      Shut down the machine immediately
  pwd           Change the root user password
  reboot        Restart the machine immediately
  resolv        Manage the domain name server
  scp           Send files via scp
  ssh           SSH to a device
  service       Manage the device center services
  sftp          Send files via sftp
  web           Commands of the device center web
  stellar       Commands of the Stellar products
  locale        Locale setting
  network       Manage network of the StellarOne service

Shortcut table:
  Tab          Auto-complete or choose the next suggestion on the list
  Ctrl + A     Go to the head of the line (Home)
  Ctrl + E     Go to the tail of the line (End)
  Ctrl + D     Delete the character located at the cursor
  Ctrl + L     Clear the screen
$ locale ja
Successfully language setting for locale.
Please reload StellarOne console to take effect.
$
```

図 4-9. StellarOne の管理サーバ画面の再ロード

3. `env ls` コマンドを入力して、現在の言語設定を確認します。

```
$ env ls
Hostname:                ODC
Status:                  RUNNING
Product Serial Number:   f549abf0-835c-11ed-97fa-000c292c1289
Version:                 2.0.1160
External IP:             Not Set
DPI Engine Version:      2.0.11.33e2e1
DPI Pattern Version:     SDP_220415_11
Stellar Enforce Agent Up Port:8000
Stellar Enforce Agent Down Port:14336
Stellar Protect Agent Up Port:9443
Stellar Protect Agent Down Port:14336
Locale:                  ja
```

図 4-10. 言語設定の確認

コマンドラインを使用した vShell での Docker ネットワークの管理

ここでは、コマンドラインを使用して、StellarOne 用に Docker ネットワークを vShell で管理する方法について説明します。

手順

1. ご利用のネットワーク設定で 169.254.0.0/16 の IP アドレスの範囲を使用する場合は、`network internal-service-update<新しい IP>` コマンドを入力し、新しい IP アドレスを設定して、Docker デーモンの IP/16 サブネットマスクを変換してください
2. Docker デーモンを初期設定のアドレスプール (169.254.0.0/16) に戻す場合は、`network internal-service-reset` コマンドを入力します。
3. Docker デーモン設定のアドレスプールを表示するには、`network internal-service-list` コマンドを入力します。

第 5 章

アップグレードと移行

この章では、TXOne StellarOne を、VMware または Windows Hyper-V システムベースの新しいインスタンスにアップグレード/移行する方法について説明します。

この章の内容は次のとおりです。

- [70 ページの「StellarOne の 2.0 \(VMware\) へのアップグレード/移行」](#)
- [73 ページの「StellarOne の 2.0 \(Hyper-V\) へのアップグレード/移行」](#)

StellarOne の 2.0 (VMware) へのアップグレード/移行

ここでは、VMware ESXi または Workstation システムで、StellarOne を 2.0 にアップグレード/移行する方法について説明します。アップグレード/移行は、以前の StellarOne インスタンスの外部ディスクを、新しいファームウェアバージョンを実行する StellarOne インスタンスに接続することにより行います。アップグレード/移行により、次の設定が新しい StellarOne インスタンスに転送されます。

- UUID
- ライセンス、アカウント情報、セキュリティポリシーなどのシステム設定
- セキュリティイベントログ



重要

システムのアップグレード/移行を実行する前に、VMware のスナップショットを撮るか、仮想マシンファイルのバックアップを作成してください。

StellarOne 2.0 は Web コンソールによるアップグレードには対応していません。

本節で説明する方法による StellarOne 1.2 からのアップグレードにのみ対応しています。StellarOne 1.0 または 1.1 の場合は、StellarOne 1.2 へアップグレードしてから、StellarOne 2.0 へのアップグレードを行ってください。

手順

1. 新しい StellarOne インスタンスを起動します。デプロイの詳細については、[22 ページの「StellarOne を VMware ESXi システムにデプロイする」](#)または [32 ページの「StellarOne を VMware Workstation にデプロイする」](#)を参照してください。
2. 以前の StellarOne インスタンスを閉じます。



図 5-1. 以前の仮想マシンのシャットダウン

3. 既存の StellarOne インスタンスの外部ディスクを新しい StellarOne インスタンスに接続します。

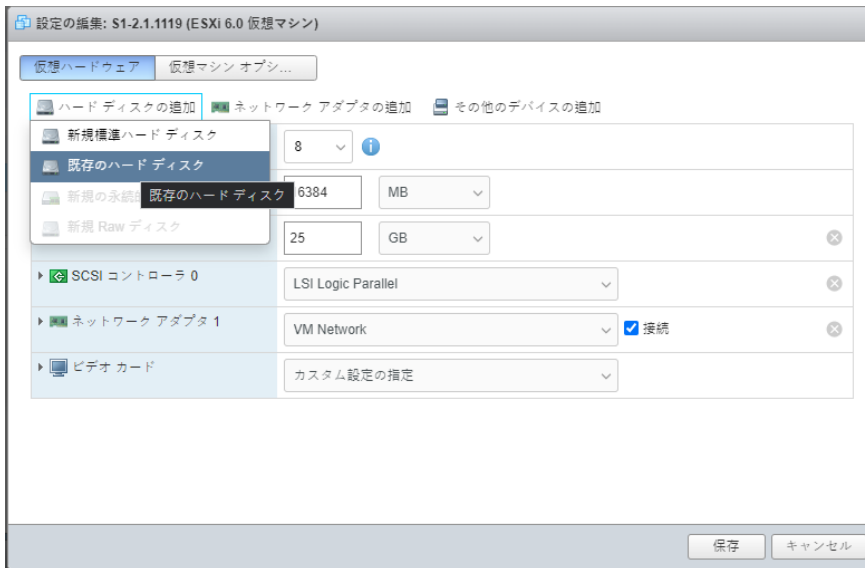


図 5-2. 既存の (以前の) ハードディスクの選択

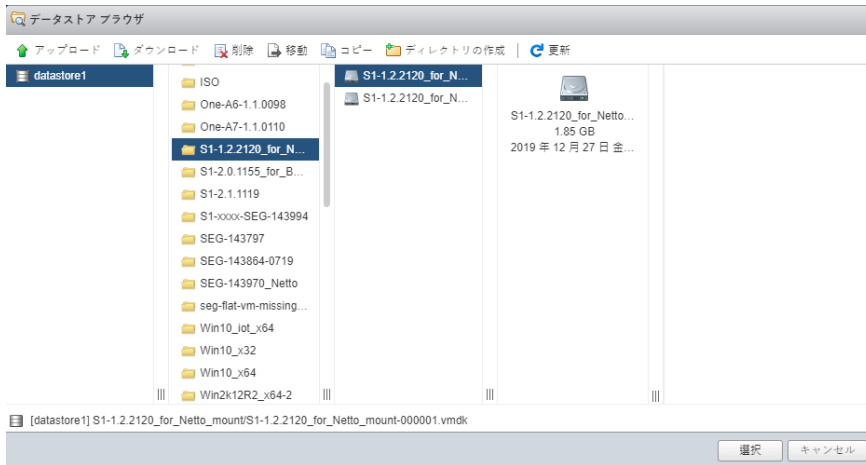


図 5-3. 新しい仮想マシンへの接続

4. 以前の StellarOne インスタンスのデータが、新しい StellarOne インスタンスにアップグレード/移行されます。
5. 新しい StellarOne インスタンスの IP アドレスは、以前の StellarOne インスタンスの IP アドレスと同じである必要があります。異なる場合は、新しい StellarOne インスタンスとエージェントが互いに接続できるように、IP アドレスを手動で設定します。次回エージェントがステータスをサーバと同期する際には、新しい StellarOne インスタンスに接続します。初期設定では、エージェントは 20 分ごとにサーバと同期します。
6. プロキシまたは検索コンポーネントのアップデート元が以前の StellarOne インスタンスすでに定義されていた場合は、新しい StellarOne インスタンスの Web GUI を使用して再度定義します。
7. 新しい StellarOne インスタンスの言語設定を日本語に変更するには、[65 ページの「コマンドラインを使用した言語設定および StellarOne 表示モードの変更」](#)を参照してください。

StellarOne の 2.0 (Hyper-V) へのアップグレード/移行

ここでは、Windows Hyper-V システムで、StellarOne を 2.0 にアップグレード/移行する方法について説明します。アップグレード/移行は、以前の StellarOne インスタンスの外部ディスクを、新しいファームウェアバージョンを実行する StellarOne インスタンスに接続することにより行います。アップグレード/移行により、次の設定が新しい StellarOne インスタンスに転送されます。

- UUID
- パターンファイルとファームウェア
- ライセンス、アカウント情報、セキュリティポリシーなどのシステム設定
- セキュリティイベントログ



重要

システムのアップグレード/移行を実行する前に、仮想マシンファイルのバックアップを作成してください。

StellarOne 2.0 は Web コンソールによるアップグレードには対応していません。

本節で説明する方法による StellarOne 1.2 からのアップグレードにのみ対応しています。StellarOne 1.0 または 1.1 の場合は、StellarOne 1.2 へアップグレードしてから、StellarOne 2.0 へのアップグレードを行ってください。

手順

1. 新しい StellarOne インスタンスを起動します。デプロイの詳細については、[39 ページの「StellarOne を Hyper-V システムにデプロイする」](#)を参照してください。
2. 以前の StellarOne インスタンスを閉じます。
3. [参照] をクリックして、既存のディスクを選択します。

4. 以前の StellarOne インスタンスの外部ディスクを新しい StellarOne インスタンスに接続します。

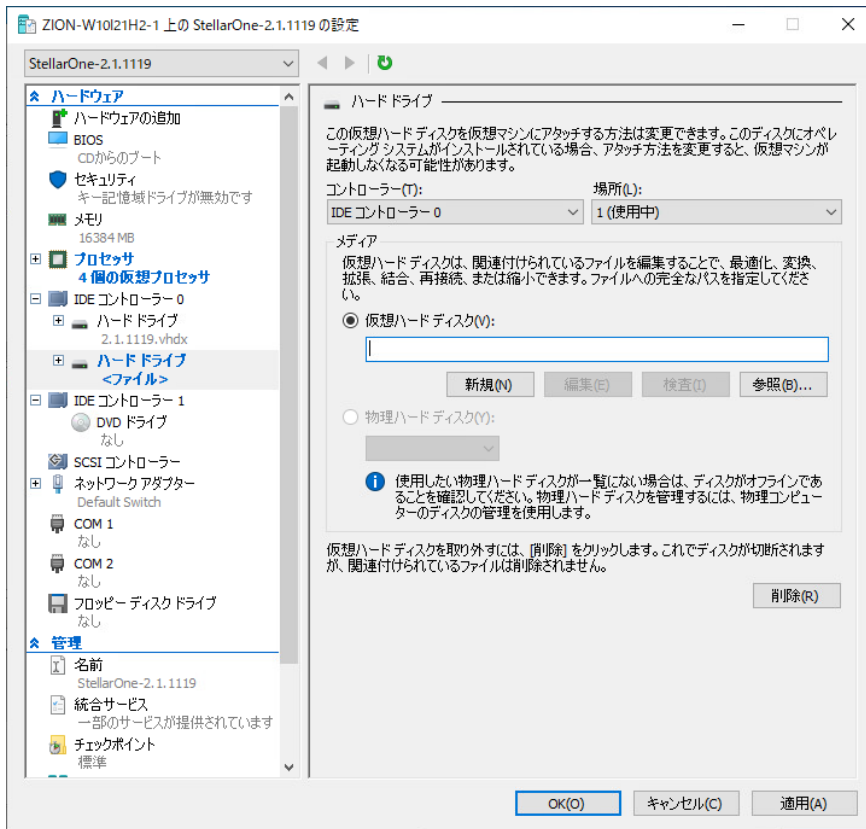


図 5-4. 以前の仮想マシンのシャットダウン

以前の StellarOne インスタンスのデータが、新しい StellarOne インスタンスにアップグレード/移行されます。

第 6 章

テクニカルサポート

TXOne Networks は、トレンドマイクロと Moxa 社の合併企業であり、TXOne Networks 製品のサポートはトレンドマイクロが行います。すべての製品サポート情報は、トレンドマイクロのエンジニアを介して提供されます。

ここでは、次の項目について説明します。

トラブルシューティングのリソース

トレンドマイクロでは以下のオンラインリソースを提供しています。テクニカルサポートに問い合わせる前に、こちらのサイトも参考にしてください。

サポートポータル利用

サポートポータルでは、よく寄せられるお問い合わせや、障害発生時の参考となる情報、リリース後に更新された製品情報などを提供しています。

<https://success.trendmicro.com/jp/technical-support>

脅威データベース

現在、不正プログラムの多くは、コンピュータのセキュリティプロトコルを回避するために、2 つ以上の技術を組み合わせた複合型脅威で構成されています。トレンドマイクロは、カスタマイズされた防御戦略を策定した製品で、この複雑な不正プログラムに対抗します。脅威データベースは、既知の不正プログラム、スパム、悪意のある URL、および既知の脆弱性など、さまざまな混合型脅威の名前や兆候を包括的に提供します。

詳細については、<https://www.trendmicro.com/vinfo/jp/threat-encyclopedia/>をご覧ください。

- 現在アクティブまたは「in the Wild」と呼ばれている生きた不正プログラムと悪意のあるモバイルコード
- これまでの Web 攻撃の記録を記載した、相関性のある脅威の情報ページ
- 対象となる攻撃やセキュリティの脅威に関するオンライン勧告
- Web 攻撃およびオンラインのトレンド情報
- 不正プログラムの週次レポート

製品サポート情報

製品のユーザ登録により、さまざまなサポートサービスを受けることができます。

トレンドマイクロの **Web** サイトでは、ネットワークを脅かすウイルスやセキュリティに関する最新の情報を公開しています。ウイルスが検出された場合や、最新のウイルス情報を知りたい場合などにご利用ください。

サポートサービスについて

サポートサービス内容の詳細については、製品パッケージに同梱されている「製品サポートガイド」または「スタンダードサポートサービスマニュー」をご覧ください。

サポートサービス内容は、予告なく変更される場合があります。また、製品に関するお問い合わせについては、サポートセンターまでご相談ください。トレンドマイクロのサポートセンターへの連絡には、電話またはお問い合わせ **Web** フォームをご利用ください。サポートセンターの連絡先は、「製品サポートガイド」または「スタンダードサポートサービスマニュー」に記載されています。

サポート契約の有効期限は、ユーザ登録完了から 1 年間です (ライセンス形態によって異なる場合があります)。契約を更新しないと、パターンファイルや検索エンジンの更新などのサポートサービスが受けられなくなりますので、サポートサービス継続を希望される場合は契約満了前に必ず更新してください。更新手続きの詳細は、トレンドマイクロの営業部、または販売代理店までお問い合わせください。



注意

サポートセンターへの問い合わせ時に発生する通信料金は、お客さまの負担とさせていただきます。

トレンドマイクロへのウイルス解析依頼

ウイルス感染の疑いのあるファイルがあるのに、最新の検索エンジンおよびパターンファイルを使用してもウイルスを検出/駆除できない場合などに、感染の疑いのあるファイルをトレンドマイクロのサポートセンターへ送信していただくことができます。

ファイルを送信いただく前に、トレンドマイクロの不正プログラム情報検索サイト「脅威データベース」にアクセスして、ウイルスを特定できる情報がないかどうか確認してください。

<https://www.trendmicro.com/vinfo/jp/threat-encyclopedia/>

ファイルを送信いただく場合は、次の URL にアクセスして、サポートセンターの受付フォームからファイルを送信してください。

<https://success.trendmicro.com/jp/virus-and-threat-help>

感染ファイルを送信する際には、感染症状について簡単に説明したメッセージを同時に送ってください。送信されたファイルがどのようなウイルスに感染しているかを、トレンドマイクロのウイルスエンジニアチームが解析し、回答をお送りします。

感染ファイルのウイルスを駆除するサービスではありません。ウイルスが検出された場合は、ご購入いただいた製品にてウイルス駆除を実行してください。

メールレピュテーションについて

スパムメールやフィッシングメールなどの送信元を、脅威情報のデータベースと照合することによって判別して評価する、トレンドマイクロのコアテクノロジーです。コアテクノロジーの詳細については、次の Web ページを参照してください。

https://www.trendmicro.com/ja_jp/business/technologies/smart-protection-network.html

ファイルレピュテーションについて

不正プログラムなどのファイル情報を、脅威情報のデータベースと照合することによって判別して評価する、トレンドマイクロのコアテクノロジーです。コアテクノロジーの詳細については、次の Web ページを参照してください。

https://www.trendmicro.com/ja_jp/business/technologies/smart-protection-network.html

Web レピュテーションについて

不正な Web サイトや URL などの情報を、脅威情報のデータベースと照合することによって判別して評価する、トレンドマイクロのコアテクノロジーです。コアテクノロジーの詳細については、次の Web ページを参照してください。

https://www.trendmicro.com/ja_jp/business/technologies/smart-protection-network.html

その他のリソース

製品やサービスについてのその他の情報として、次のようなものがあります。

最新版ダウンロード

製品やドキュメントの最新版は、次の Web ページからダウンロードできます。

https://downloadcenter.trendmicro.com/index.php?clk=left_nav&clkval=all_download®s=jp



注意

サービス製品、販売代理店経由での販売製品、または異なる提供形態をとる製品など、一部対象外の製品があります。

脅威解析・サポートセンターTrendLabs (トレンドラボ)

TrendLabs (トレンドラボ) は、フィリピン・米国に本部を置き、日本・台湾・ドイツ・アイルランド・中国・フランス・イギリス・ブラジルの 10 カ国 12 か所の各国拠点と連携してソリューションを提供しています。

世界中から選り抜かれた 1,000 名以上のスタッフで 24 時間 365 日体制でインターネットの脅威動向を常時監視・分析しています。



文書番号: APEM29593_JP2303